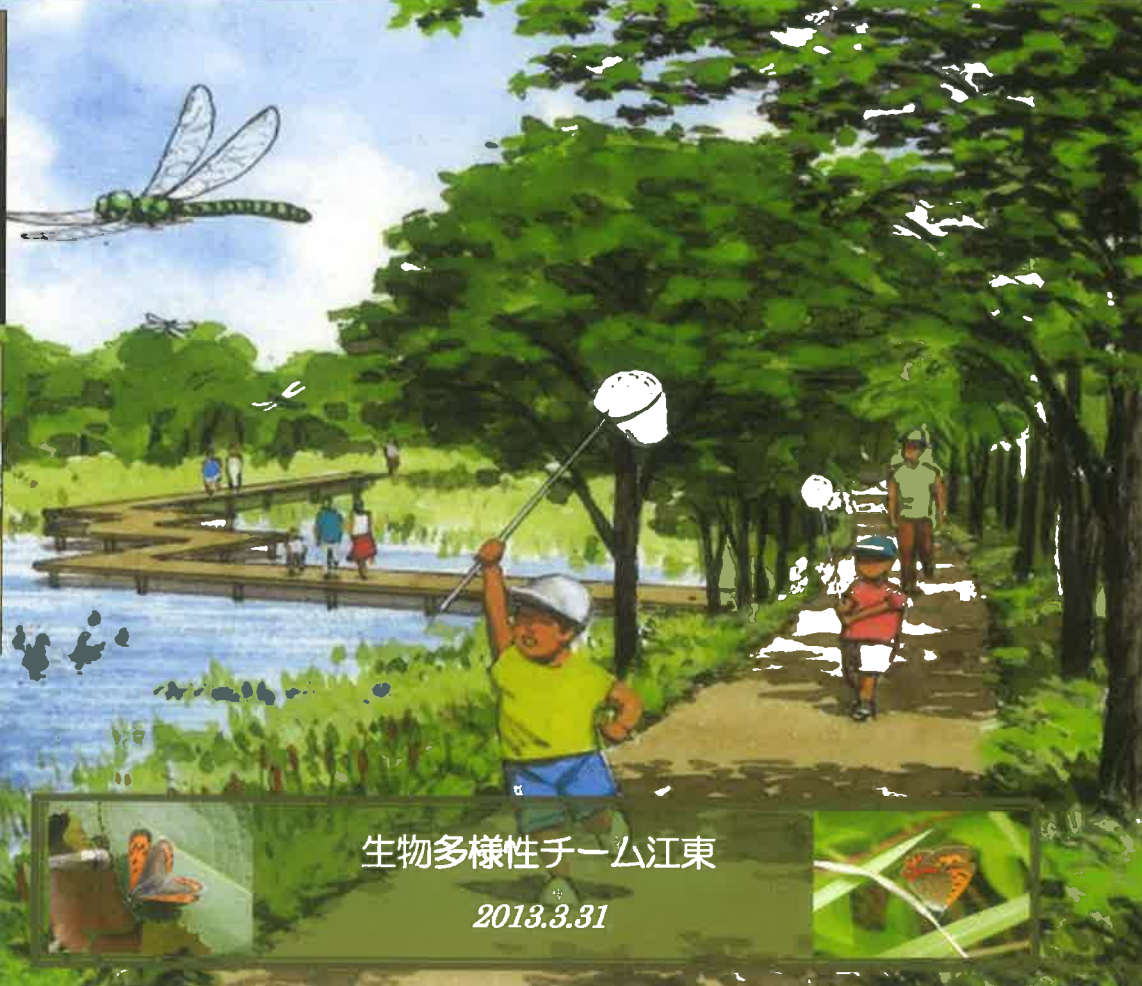




ネイチャーパーク活用ネットワーク事業

～生物多様性保全を基調とした森のようちえん・自然系プレイパークの実現に向けて～

事業の実施内容及び実績に関する報告書



生物多様性チーム江東

2013.3.31

CONTENTS

目次	1
第1章 地域の課題	2
第2章 モデル事業の概要	2
第3章 マルチステークホルダーの概要	3
第4章 実施事業の詳細な内容	4-6
申請時計画からの主な変更点	
実施結果及び数値目標達成率	
ネイチャーパークの具体像	
第5章 事業実施上の課題	10
第6章 モデルとして他のNPO・自治体等に紹介する仕組み	10-11
第7章 平成25年度以降の予定	11
第8章 本事業で得た数値目標以外の成果	12
第9章 事務局所感	12
第10章 募集案内チラシ	13-15
記録写真(これまでの報告分を除く)	16-17
○ 参考資料 ○	18-45
「子どものためのネイチャーパークを考えよう」ワークショップ実施報告	19-26
「生きもののためのネイチャーパークを考えよう」ワークショップ実施報告	27-34
「ネイチャーパーク活用ネットワーク事業報告会」実施報告	35-45

第1章 地域の課題

江東区では、1988年より生物の生息空間として、ビオトープ整備（ポケットエコスペース事業）が進められ、公園や河川敷、小学校、幼稚園などに48か所（約2.7ヘクタール）が設置されている（平成23年4月1日現在）。その環境管理や普及活動を行う市民団体の育成についても、1996年より継続して行っており（ネイチャーリーダー講座：初級～上級）、現在では様々な団体の活動の場として活用されている。

一方、これらの場所は小規模な空間が多く、都立公園や海上公園などの大きな緑地空間を含めた生物多様性豊かなネットワークづくりやそのための環境管理、普及啓発の仕組みは未整備のままである。

また、施設どうしのネットワークや活動団体どうしのネットワークにより、幼いころから地域の自然に親しみながら成長していく仕組みが十分にできていない。



第2章 モデル事業の概要

身近な公園緑地において、生物多様性豊かな空間を、行政だけでなく市民団体、企業、学識経験者などが協働し、地域主体で作り上げながら、それらをネットワークさせることで、地域の子どもたちを育てる場として活用していくための仕組みづくり（ネイチャーパーク活用ネットワーク）を本事業では目指す。期間は平成24年3月から平成25年3月までの約1年間で、これらを実現させるためのワークショップやシンポジウムなどソフト関連事業を行うものである。

また、本事業を実現することで、江東区長期計画における第1施策としての「エコロジカルネットワークの形成」に寄与する事業に落とし込む。

第3章 マルチステークホルダーの概要

名称：生物多様性チーム江東

本団体は、2010年に名古屋市中で開催されたCOP10に先立ち、市民団体、行政（区役所）、企業が連携して結成した団体であり、2011年度は地域連携保全活動計画の市民案作成に向けた勉強会等を行ってきた。さらに団体の大きな目標として生物多様性基本法に基づく「生物多様性地域戦略」市民案の作成を目指しており、将来はそれらを実行する協議会として継続するように考えている。

【市民団体】NPO 法人ネイチャーリーダー江東、NPO 法人マザーツリー自然学校、NPO 法人みどり環境ネットワーク！、NPO 法人江東区の水辺に親しむ会、NPO 法人生態教育センター、江東エコリーダーの会、こうとうビオトープネットワーク、みどりネット KOTO、江東田んぼクラブ、江東ネイチャーゲームの会、NPO 法人水辺と生物保全推進機構

【行政】担当：江東区土木部水辺と緑の課

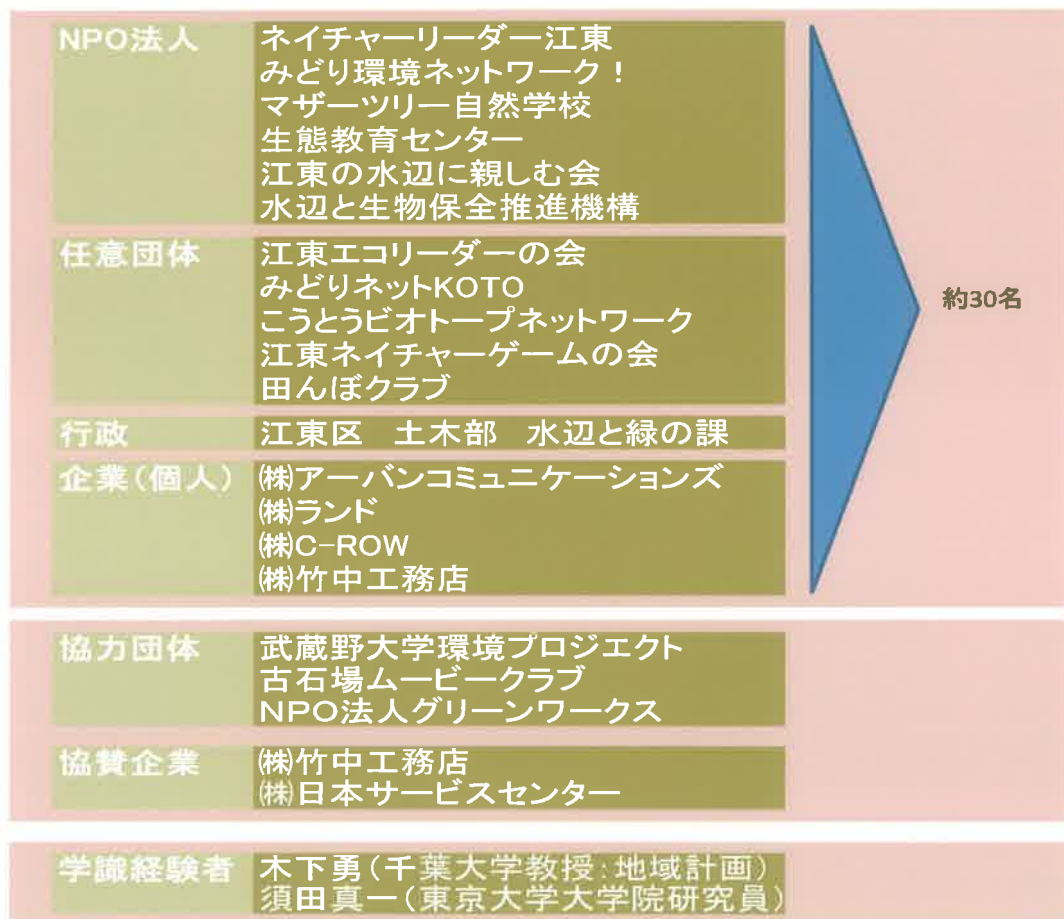
協力：子ども未来部、江東区教育委員会

【企業】(株)C-RROW、(株)ランド、(株)アーバン・コミュニケーションズ、(株)竹中工務店、(株)日本サービスセンター

【学識経験者】（事業統括アドバイザー）：木下勇（千葉大学園芸学部教授：地域計画）
（生物多様性保全事業）：須田真一（東京大学大学院研究員：保全生物学）

【事業協力団体】武蔵野大学環境プロジェクト、古石場ムービークラブ、NPO 法人グリーンワークス

※下線の二重線は本事業の実施の中で新たに加わった団体を示す。



第4章 実施事業の詳細な内容

○平成23年度 ○

1. キックオフイベント:「みんなで作ろうネイチャーパーク」シンポジウム

生物多様性チーム江東が作成する地域連携保全活動計画（市民案）に盛り込む予定のネイチャーパークの活用のためのネットワーク作りのスタートとして、その考え方について話し合った。

実施日時：平成24年3月10日（土）18:30～21:00

実施場所：砂町文化センター

開催趣旨説明；清田秀雄（生物多様性チーム江東事務局）

基調講演：「ネイチャーパークをつくろう！」

汐見稔幸（白梅学園大学学長）

シンポジウム：「みんなで作ろうネイチャーパーク！」

パネラー：汐見稔幸（白梅学園大学学長）

開発法子（日本自然保護協会事務局長）

藁谷久雄（NPO 法人国際自然大学校長）

阿河真人（生物多様性チーム江東会長；NPO 法人ネイチャーリーダー江東会長）

山田英典（江東区土木部みどり推進担当課長）

総合司会：村田千尋（生物多様性チーム江東会員；NPO 法人みどり環境ネットワーク！事務局長）

○平成24年度 ○

公園づくりワークショップ事業

『利用者としての子どもの視点』からと『整備したい自然環境の視点』の双方から目指すべき公園像を考えるためのワークショップを計5回にわたって開催した。

1. 子どものためのネイチャーパークを考えようワークショップ(全3回)

運営担当：中安敬子（NPO 法人マザーツリー自然学校）、坂本千晴（㈱C-R-O-W）

- ・第1回：「ネイチャーパークって何だ？」

実施日時：平成24年7月7日（土）

実施場所：森下文化センター

- ・第2回：「子どもと自然 何を感じるのか知ろう」

実施日時：平成24年8月4日（土）

実施場所：夢の島公園

- ・第3回：江東区版ネイチャーパークを考えてみよう」

実施日時：平成24年8月25日（土）

実施場所：森下文化センター

2. 生きもののためのネイチャーパークを考えようワークショップ(全2回)

運営担当：阿河真人（NPO 法人ネイチャーリーダー江東）、大原（NPO 法人生態教育センター）

- ・第1回：「江東区内の自然地を訪れる～自然観察会～」

江東区内の自然地を訪れ、観察会を通して、江東区の自然環境や生息する生きものについて学ぶ。

実施日時：平成24年9月8日（土）

実施場所：仙台堀川公園～横十間川親水公園

- ・第2回：「江東区版ネイチャーパークを考えてみよう」

第1回の観察会で感じたことを参加者で共有し、今後「江東区にネイチャーパークをつくる時に大事にしたい点」について話し合う。

実施日時：平成24年9月22日（土）

実施場所：江東区教育センター

生物多様性保全事業

須田真一氏（東京大学大学院研究員：本事業生物多様性保全事業アドバイザー）と検討の上、実施期間を6月から11月まで毎月2回計12回のモニタリング作業を行った。調査方法の習熟とともにデータの収集、解析を行い、その結果について区内のビオトープ48か所での保全活動に活用していくこととした。

また、モニタリング作業と並行し、日本における外来種教育の現況と課題を洗い出しながら、小学生向けの外来種副読本づくりを作業に加え、現在も制作検討会議を継続している。

3. 外来種駆除大作戦(アメリカザリガニ編)

1) 駆除モニタリンググループ

実施場所：仙台堀川公園ポケットエコスペース

運営担当：松本博光（NPO法人ネイチャーリーダー江東）、阿河真人（NPO法人ネイチャーリーダー江東）、井上守（江東エコリーダーの会）

- ・毎月2回、池に仕掛けた罠に入ったアメリカザリガニの計測の上、傾向を分析し、その手法を区内のビオトープで活用する。

2) アメリカザリガニ副読本作成グループ

運営担当：齋藤宣子（江東エコリーダーの会）、藤崎由利子、野村由紀子、栗原裕子、阿河真人（以上4名：NPO法人ネイチャーリーダー江東）、高橋芳栄（江東ネイチャーゲームの会）、清田秀雄（江東区役所）

- ・区民まつりでの意識調査：大人、子ども各40名に実施
- ・区立図書館での「アメリカザリガニ」を記述した全図書調査
- ・国の教育指導要領、江東区の教育方針の調査
- ・下敷きの作成：原案を作成中。平成25年度に制作発注し、区内小学校に配布予定
- ・副読本作成：平成25年度に活動継続

生物多様性普及啓発事業

4. 生物多様性自然観察会

運営担当：藤巻由利子、加藤湖倫、松本博光（3名ともNPO法人ネイチャーリーダー江東）

実施日時：2月17日（日）9:30～12:00

実施場所：仙台堀川公園、横十間川親水公園

5. 生物多様性ジュニアスクール親子体験入学コース

運営担当：清田秀雄（江東区役所）、松本博光（NPO法人ネイチャーリーダー江東）

実施日時：3月30日（土）10:00～12:00

実施場所：東京大学総合研究博物館

講師：須田孫七（東大総合研究博物館）

矢後勝也（東大総合研究博物館助教）

事業報告会

6. 2012年度活動報告会

運営担当：美濃又哲男（NPO 法人江東区の水辺に親しむ会）、中安敬子（NPO 法人マザーツリー自然学校）、
坂本千晴（株C-ROW）

実施日時：3月20日（土）午前の部 10:00～12:00 午後の部 14:00～16:30

実施場所：江東区教育センター

1) 午前の部

10:00～11:00 「ネイチャーパークで遊ぼう」

子どもたちが室内を利用してネイチャーパークを疑似体験した。

- ・「自然とあそぼう☆講座」：中安敬子（NPO 法人マザーツリー自然学校）
- ・「泥んこアート」：美濃又哲男（NPO 法人江東の水辺に親しむ会）
- ・「まきまき種まき」：東方陽子（NPO 法人グリーンワークス）
- ・「どんぐりストラップ」：田中聖美（NPO 法人みどり環境ネットワーク！）
- ・「パネルシアター：アメリカザリガニって」：藤崎由利子（外来種副読本グループ）

11:00～12:00 「おしゃべりタイム」

子どもたちと一緒に来場した保護者に今後のサポーターとして参加してもらうように仕掛けた。

担当：坂本千晴（株C-ROW）

2) 午後の部

14:00～16:30 「助成金活動報告会」

司会進行：坂本千晴（株C-ROW）

主催者あいさつ：阿河真人（生物多様性チーム江東会長）

助成金事業について：清田秀雄（江東区役所）

助成金事業報告

- ・「子どものためのネイチャーパークワークショップ」中安敬子（NPO 法人マザーツリー自然学校）
- ・「生きもののためのネイチャーパークワークショップ」大原庄司（NPO 法人生態教育センター）
- ・「外来種駆除大作戦」松本博光（NPO 法人ネイチャーリーダー江東）
- ・「アメリカザリガニ副読本づくり」齋藤宣子（江東エコリーダーの会）
- ・「生物多様性自然観察会」松本博光（NPO 法人ネイチャーリーダー江東）
- ・「生物多様性ジュニアスクール、今後の事業展開」清田秀雄（江東区役所）

区役所からのあいさつ：高垣克好（江東区役所土木部水辺と緑の課長）



○ 申請時計画からの主な変更点 ○

ネイチャーパーク活用ネットワーク事業～生物多様性保全を基調とした森のようちえん・自然系プレイパークの実現に向けて～

【当初計画】

2011年度		2012年度		2013年度	
年度	シンポジウム	公園づくりワークショップ事業	生物多様性普及啓発事業	子どもワークショップ	シンポジウム
副事業名	「みんなで作ろうネイチャーパーク活用ネットワーク」	森のようちえん・自然系冒険遊び場を作ろう！	地域の自然環境を再生した公園を作ろう！	ネットワークを作る！	外来種駆除大作戦
副題					
小題				①森のようちえんの自然を再生しよう！ ②学校ピオトープの自然を再生しよう！	

モニタリング回数を3回から月2回(事前説明会+計12回)に増やすとともに子ども向け副読本茶の

3回予定だった公園づくりワークショップ回数を5回に増やした

【実施計画】(中間報告時)

2011年度		2012年度		2013年度						
年度	シンポジウム	公園づくりワークショップ事業	生物多様性普及啓発事業	子どもワークショップ	シンポジウム					
副事業名	「みんなで作ろうネイチャーパーク」	子どものためのネイチャーパークを考えようワークショップ	生きものためのネイチャーパークを考えようワークショップ	ピオトープホリディズジュニア	外来種駆除大作戦(アフリカザリガ二編)					
副題										
小題		①ネイチャーパークって何だ？ ②子どもと自然向を感じるのかを知らう	①江東区内の自然地向を感じる～自然観察会 ②江東区版ネイチャーパークを考えてみよう	①室内作業 ②保全活動 ③自然再生活動	副読本作成					
実施年月日	2012.3.10	2012.7.7	2012.8.4	2012.8.25	2012.9.8	2012.9.22	2012.10.1	2012.10.1	2012.12	2013.3

①副題を「ピオトープホリディズジュニア」から「生物多様性ジュニアスクール」とし、次年度より継続実施
②3回実施予定だったが、内容説明のための親子体験入学科コースを1回実施した

【実施内容】(最終報告)

2011年度		2012年度		2013年度						
年度	シンポジウム	公園づくりワークショップ事業	生物多様性普及啓発事業	子どもワークショップ	シンポジウム					
副事業名	「みんなで作ろうネイチャーパーク」	子どものためのネイチャーパークを考えようワークショップ	生きものためのネイチャーパークを考えようワークショップ	生物多様性ジュニアスクール	外来種駆除大作戦(アフリカザリガ二編)					
副題										
小題		①ネイチャーパークって何だ？ ②子どもと自然向を感じるのかを知らう	①江東区内の自然地向を感じる～自然観察会 ②江東区版ネイチャーパークを考えてみよう	親子体験入学科コース	副読本作成					
実施年月日	2012.3.10	2012.7.7	2012.8.4	2012.8.25	2012.9.8	2012.9.22	2012.10.1	2012.10.1	2012.12	2013.3.20

今年度までの観察会を中間報告した。次年度より継続調査を行う。

○ 実施結果及び数値目標達成率 ○

申請時の計画

年度	実施業務名	当初計画	予定 受益者	
23	キックオフ シンポジウム	「みんなできつろうネイチャーパーク活用ネットワーク」	地域住民80人	
24	公園づくり ワークショップ事業	1) 森のようちえん・自然系冒険遊び場を作ろう！ 2) 地域の自然環境を再生した公園を作ろう！ 3) ネットワークを作ろう！	地域住民90人	
	生物多様性普及啓発 事業	1) 生物多様性自然観察会 2) ボランティア育成講習会(ビオトープホリデイズ学校編) 1) 子どもワークショップ ① 森のようちえんを体験しよう！ ② 学校ビオトープの自然を再生しよう！	地域住民 120人	
		生物多様性保全事業	1) 外来種駆除大作戦(アメリカザリガニ編)	地域住民50人
		ファイナル シンポジウム	「みんなできつろう、みんなで遊ぶ、生物多様性保全型公園市民案のお披露目」	地域住民80人

実施内容の変更点

24	申請時計画からの 変更点	1. 公園づくりワークショップ事業を3回から5回に増やした。 2. 外来種駆除大作戦を「モニタリング調査」と「副読本作成」の二つのテーマに分けて作業を行った。 3. ボランティア育成講習会を3回から1回に減らし、「親子体験入学コース」とし、25年度からの実施とした。 4. 「ファイナルシンポジウム」を「ネイチャーパーク疑似体験」と「助成金活動報告会」に変更した。
----	-----------------	---

実施結果と数値目標達成率

年度	実施業務名	実施概要	数値目標	実施	達成率
23		1. キックオフシンポジウム「みんなできつろうネイチャーパーク」2012年3月10日	シンポジウム 1回	1回	100%
			参加人数80人	45人	56%
24	ネイチャーパーク活用 ネットワーク事業	1. 子どものためのネイチャーパークを考えようワークショップ(全3回)	ワークショップ 3回	3回	100%
			参加人数60人	53人	88%
			第1回:「ネイチャーパークって何だ」 2012年7月7日	20人	
		第2回:「子どもと自然 何を感じるのかを知ろう」 2012年8月4日	13人		
		第3回:「江東区版ネイチャーパークを考えてみよう」 2012年8月25日	20人		
		2. 生きもののためのネイチャーパークを考えようワークショップ(全2回)	ワークショップ 2回	2回	100%
			参加者60人	42人	70%
		第1回:「江東区内の自然地を訪れる」 2012年9月8日	24人		
		第2回:「江東区版ネイチャーパークを考えてみよう」 2012年9月22日	18人		
		3. 外来種駆除大作戦(アメリカザリガニ編)	参加者50人	26人	52%
			1) 駆除モニタリング作業 2012年6月～2013年3月	18人(最大参加日)	
		2) 副読本作成作業 2012年7月～2013年3月	8人(最大参加日)		
		4. 生物多様性自然観察会 2013年2月17日	参加人数30人	15人	50%
		5. 生物多様性ジュニアスクール 2013年3月30日	参加人数30人	19人	63%
6. 助成金活動事業報告会 2013年3月20日	参加人数80人	58人	73%		
	開催回数 3回	1回	33%		

○ ネイチャーパークの具体像 ○

1) ターゲットを区の公園計画のある大島9丁目公園に定める。

2) 区内の自然環境の見本園

「子どものための」、「生き物のための」の2つのワークショップを通じて、どんな環境整備が必要かを検討してきたが、公園面積が1ヘクタールという面積の中で多くの環境を用意することが困難なため、江東区の自然環境の見本園的なものとして整備し、それぞれの環境要素を区内の公園にちりばめていくことにより、区内の生物多様性を高めながら、ネイチャーパーク機能を区内全体の緑地に広げていく。大島9丁目公園はそのセンター機能を持たせることになる。

公園では大正時代頃まで残っていた海辺や湿地といった江東区の特徴的な自然環境を復元することがテーマとなる。

3) ネイチャーセンター機能

公園利用者のためのビジターセンターとして、公園の自然環境やイベント情報などを展示するほか、各種講座や研修施設としての会議室を持つ。

4) 区内の自然環境団体の拠点機能

多くの環境団体が事務所機能を持っていないことや様々な事業をマルチステークホルダーにより進める場面でいつでも集まれる拠点となる施設とする。

5) 自然史博物館準備室

東京都には自然史博物館が存在しないが、地方レベルではすぐれた自然史博物館がいくつもある。北九州市では1970年代から八幡駅舎に準備室を設けていたが、2000年を過ぎてようやく実現した。また、千葉県は多くの人材を登用し、環境教育にも力を入れながら博物館機能を強化してきた。今回の公園では規模は小さいとしても将来、区内に自然史博物館がほしいというその思いを込めて、標本保管や自然情報の蓄積などを通してその準備を行っていく。



6) 後継者育成

計画デザイン、現地の施工、環境の維持管理、観察会の企画運営、広報活動など、公園に関わる一連の活動を子どもたちが主体的に取り組むことができるような「生物多様性ジュニアスクール」の早期の実現に向けて平成25年度から試行的に開講する。

第5章 事業実施上の課題

1. 多様な主体の巻き込み

1) 行政内部(特に教育局、環境部局)のコンセンサス

事務局を行政担当部署に置いているが、行政全体の取り組みとしては認識がである。また、担当部署である土木部においてもごく一部の担当者が業務に当たっており、部内の認知度も低い。こうした行政内部における認知度を高めながら、どのように調整に当たっていくかが今後の大きな課題である。

ただ、子育て支援部局と関わりの深いNPOがパイプ役となり、子育ての立場から事業を進める可能性を持っていると考えており、実際に事業広報を子育て支援サイトで紹介したり、最終報告会に子ども家庭支援センター長が出席するなど新たな展開も見えている。

2) 一般区民の関心を高めるための普及活動

生物多様性に関する関心が非常に低い状態にある中で、江東区内にネイチャーパークが必要であることを継続的にどのように周知させていくかということも大きな課題として挙がっている。

ネイチャーパークの整備提案予定地の近隣住民からは別形態の公園整備を望む声も出ており、平成25年度は一般区民への必要性の周知とともに近隣住民のコンセンサスを図っていくことも当会の重要な事務となる。

2. 広報の仕組みの改善

多彩なメニューで事業を展開してきたが、ほとんどのメニューで広報が後手に回ってしまった。各団体の通常事業でも同様のことが言えており、役員としての広報担当をしっかりと据えて、十分余裕をもって広報に当たる必要がある。

3. 計画案実施に向けた具体的スタート

1) 地域と行政内部への働きかけの方法

課題1でも挙げたが、平成25年度は実際に事業を展開するにあたって行政と地元への前捌きの年度となる。当会の中でどのような立ち回りができるのか、毎回の定例会で議論となるが、明確な方向性が打ち出せていない。

2) 計画実施体制(多様な主体の参画による計画設計や公園整備手法)

今回の事業では区への提案として、区長期計画における整備期間(平成26年度から平成28年度)を超えた長いスパンでの市民による参画の仕組みを提案している。こうした整備手法は区としては経験がなく、実現させるためには整備担当部署だけではなく、区の企画部署や予算担当部署との調整も必要となる。

以上の3点を課題解決に導くためには、現在のマルチステークホルダーによって、より包括的、戦略的に取り組みを進めていかなければならず、今後ますます当会としての力量が問われることとなる。

第6章 モデルとして他のNPO・行政等に紹介する仕組み

1. 事業報告書の作成と関係機関への送付

本事業の中で、まだ、継続している事業があり、会としての正式な事業最終報告書の発行は5月下旬を予定している。発送先として、都内のNPO、市民団体、報道機関、関連学会、研究者、国、東京都、23区関係部署、区内小学校、幼稚園、保育園、児童館、図書館などに配布する予定である(本事業のキックオフイベント報告書並びに2011年度年次報告書については上記団体約300団体にすでに送付した)。

2. 協議体によるウェブ上のプラットフォーム設立

本事業で最も課題となったのが広報の遅れである。複数の団体が参加しているが広報媒体を持っていない団体もあり、継続的に活発な活動を行っているにもかかわらず、行政や一般区民に伝わっていないこと

も多い。そのため、これらの情報を集約し広く紹介する場を作る必要性を日頃から痛感している。現在、当会でもホームページを試行的に運用している段階であるが、今年度は広く活動団体が集まれる場として当会のホームページをプラットホーム化することを検討している。

3. 行政からの発信

行政からも区のホームページや区民協働のサイト、子育て支援サイトから情報発信を行っていく。

第7章 平成25年度以降の予定

1. 平成25年度

行政の組織改正により担当部署が変わったが、新たな担当部署と連携し、さらに教育委員会、子育て支援課などに今回の事業報告を行い、行政内部の調整作業を進める。

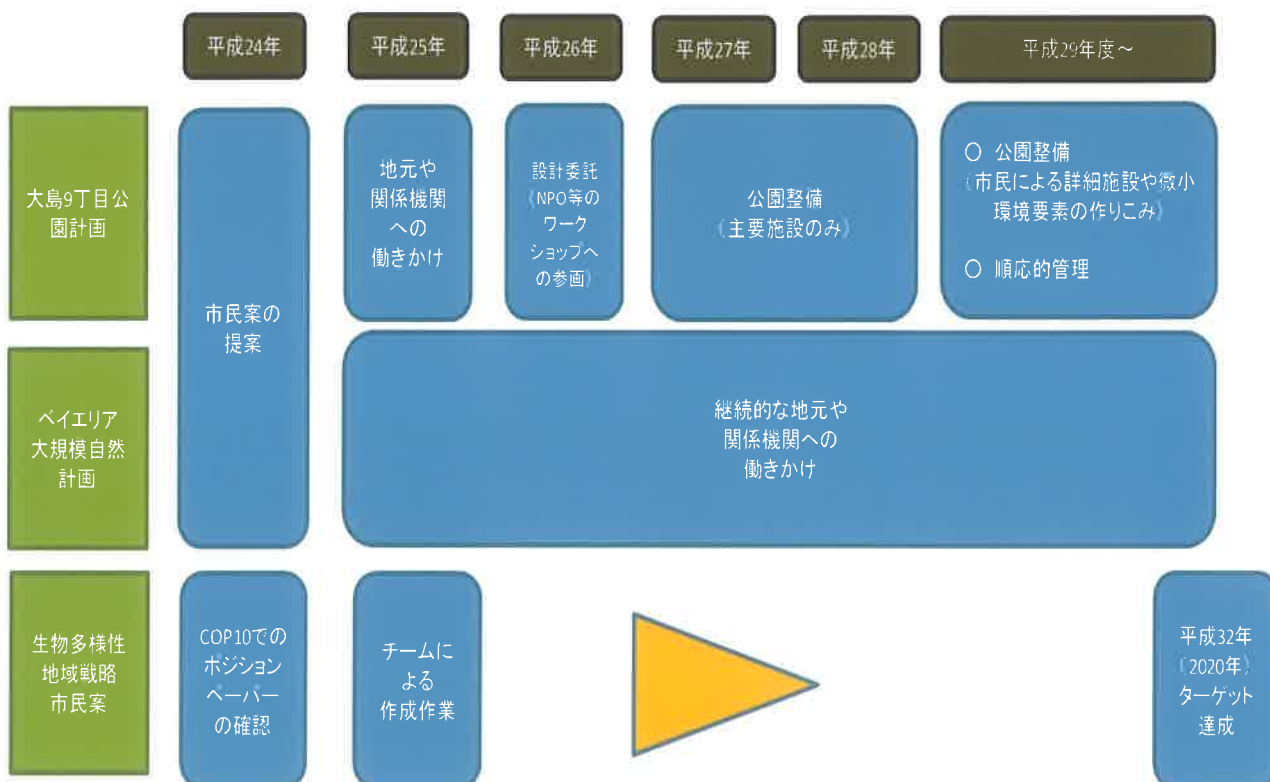
また、今回のモデル事業の中から新たに見えてきた視点を盛り込み、当会の活動目的である「生物多様性地域戦略市民プラン」を作成する予定である（市民参加型の事例は千葉県モデルとして知られているが、市民主体での作成は全国でもまだ事例がない）。

ネイチャーパーク、生物多様性地域戦略とともに見えてきたものとして、湾岸地域の海上公園等の大規模緑地や未利用地について、エコロジカルネットワークの視点から重視し、生物多様性豊かな緑地として保全するよう関係機関への働きかけを行っていく。

2. 平成26年度～平成28年度

区の長期計画では、平成26年度に設計委託、平成27年度、28年度に公園整備の計画となっている。本事業では、平成26年度の設計段階からコンサルタントへの委託形式ではなく、協議体も参画し、区内のNPOなどと連携した形で計画を策定するように提案する。

また、整備工事についても施工業者による2か年の整備だけではなく、市民が細かな環境整備に加わり、より時間の長いスパンで整備を行うような方式を区の担当部署と継続して協議する予定である。



第8章 本事業で得た数値目標以外の成果

1. マルチステークホルダーによる事業効果

1) 専門性・多様性・総合力の発揮

単独団体ではなしえないことを、行政、市民団体、企業それぞれの持つ得意分野を共有し合い、それぞれの役割を補完しながら、よりスムーズな事業進行を行うことができた。行政は予算執行や法的な仕組みを考え、市民団体はそれぞれのミッションに沿った活動内容を出し合い、企業は資金面や広報面での広がりを持ち、これらの多様な立場を理解し、力を合わせることで総合力を向上することができたと思う。

2. 助成金事業を上回る成果の広がり

1) 生物多様性地域戦略やエコロジカルネットワーク構想との関連性

後継者育成や子供の視点を重視した生物多様性地域戦略の在り方、ベイエリアにおける海上公園のネットワークを重視したエコロジカルネットワーク構想の構築など、新たな視点での事業展開が生まれてきた。

2) 東京都シンポジウムや公園緑地全国大会での事例発表

2012年9月、都庁ホールにて、当会も登壇して、江東区の取り組みを紹介するシンポジウムを開催することができた。さらに10月に日比谷公園で開催された公園緑地全国大会（（一社）日本公園緑地協会主催）で当会の取り組みを先進事例として紹介することができた。

3) 地元大学での活動紹介、学生グループの協カスタート

昨年後半より調整を進めてきた地元大学（武蔵野大学環境学科）で12月に活動紹介をすることができたが、その後、受講していた学生グループの代表と連絡を取り合っていたが、3月の最終報告会から協力してもらえるようになり、今後も様々な活動で連携し合えるようになった。

3. 外来種教育の必要性

本事業では、江東区のビオトープで問題が顕在化しているアメリカザリガニについて、モニタリング調査を行ったが、国の学習指導要領において外来種教育がほとんどなされていない状況にあるため、アメリカザリガニなどの外来種への認識がないまま、成人してしまうことが分かった。本事業が終了した後も継続して外来種副読本作成に向けた活動を行っていくこととなった。

第9章 事務局所感

この助成金事業もようやく報告書提出までこぎつけることができました。たくさんの団体や個人の集まりで進めてきた中で、多くのことを学びました。

「新しい公共」という魅力的なキーワードには今も魅かれています。これからの地域コミュニティづくりには欠かせない考え方であると確信しています。直接民主主義的な社会づくりは、これまでの日本ではあまり経験してこなかったことで、いつもどこかで他人任せのような傾向が官民ともにあったと思います。

人口減少と超高齢社会を向かえる中で、将来の世代がどんな地域を作っていけるのか。生物多様性の衰退と地球温暖化という2つの大きな環境問題を抱えながら、その中でみんなで手を取り合い、汗を流し、よりよい地域を作っていく、今、その土台部分を私たちは作っていかなければならないと思います。

申請時には想像もしなかった事業展開がいくつもあったり、何度も激論を交わしながら事業が停滞したり、そんな繰り返しの中でも新たな人材が登場し、救ってくれたりしました。2010年にスタートしたこの協議体も初めての助成金事業の執行により、ワンステップ成長することができたと感じています。

これから実際にこの事業を実現するためには、まだまだ多くの難関を乗り越えていかなければならないと覚悟していますが、チームワークとチームカラーを大切に、この難関を乗り越えていきたいと思っています。

生物多様性チーム江東事務局長（江東区土木部水辺と緑の課） 清田 秀雄

2013年3月31日

参加者募集

生きもののための ネイチャーパークを考えよう ワークショップ

「生きものの視点」から考えてみませんか？

江東区の自然を活かした公園づくりを




【第1回】9月8日(土) 9:30-12:00
江東区内の自然地を訪れる～自然観察会
集合：仙台堀川公園ポケットエコスペース
(江東区東横 6-6-0 交 島崎駅「西口」、島崎バス停「西口」)

【第2回】9月22日(土) 9:30-12:00
江東区版ネイチャーパークを考えよう
会場：江東区教育センター(江東区東横 2-3-6 島崎駅「西口」)

自然好きの方！ぜひご参加を

募集対象：第1、2回に参加できる大人の方 20名
(お子様連れ可。保育はありません)

申込方法：江東区ホームページ「イベント情報」(<http://www.city.koto.lg.jp/avenue/>)の2階内を通じてインターネットで。またはハガキで。
①氏名(年齢・性別)・住所(電話番号を記載し、江東区 水辺と緑の課 計画調整 担当 へ 135-8369 江東区東横 4-11-28) まで。

申込締切：8月31日(金) 必着
問い合わせ：03-3647-9426 (計画調整担当)

※本事業は、東京都新しい公共モデル事業助成金による「ネイチャーパーク活用ネットワーク構築」として、生物多様性チーム江東が企画しています。応募に際していただいた個人情報も、本件の企画以外に本庁と関係した関係機関に提供することをご了承ください。




「ネイチャーパーク」ってなあに？

「ネイチャーパーク」とは、小動物や鳥、虫などの生きものが豊かに暮らし、さまざまなイベントが行われ、自然に触れ合うことができる公園のことです。

そんな公園が江東区にあつたら素敵だと感じませんか？
今回のワークショップでは、生きもののために、江東区の自然を活かした公園づくりを考えます。

第1回目は、江東区内の自然地を訪れ、観察会を通して、江東区の自然環境や生息する生きものについて学びます。
第2回目は、観察会で感じたことを参加者全員で共有し、今後「江東区にネイチャーパークをつくる時」に大事にしたい点について話し合います。
生きものが好きな方、江東区の自然に興味のある方、皆様の参加をお待ちしております。

【第1回】9月8日(土) 9:30-12:00
集合：仙台堀川公園ポケットエコスペース
「江東区内の自然地を訪れる～自然観察会」

- ワークショップの位置づけと自己紹介
- 仙台堀川公園ポケットエコスペース、島十間川水辺公園、北野小学校ビオトープの3箇所を巡り、江東区の自然環境及び生息する生きものを学びます。
- などの

【第2回】9月22日(土) 9:30-12:00
会場：江東区教育センター
・今回の位置づけ/第1回の振り返り
・江東区版ネイチャーパークを生きものの視点から考えてみよう
・などの

※プログラムの内容、時間を変更する場合があります。




【第1回】9月8日(土) 会場 仙台堀川公園 ポケットエコスペース

【第2回】9月22日(土) 会場 江東区教育センター

がいらいしくじょだいさくせん あめりかざりがにへん
外来種駆除大作戦(アメリカザリガニ編)

そこのあなた、
アメリカザリガニってかっこいい！
なんて思っていないませんか？

今、全国の池や沼が大変なことになっています。
たくさんの生き物が豊かに暮らしていた水の中で、ヤゴやゲンゴロウなどの水生昆虫や水草を食べたり、切ったりしてしまい、池や沼をひとりじめしてしまう外来生物。
それがアメリカザリガニです。
この大作戦では、1年を通してアメリカザリガニについて学びながら、ポケットエコスペースで退治を行います。
外来種で困っているあなた、トンボや水草の大好きなあなた、生き物が好きな方を募集いたします。
ナビゲーターはモリゾウキッコロでおなじみの須田真一さんです。



【日時】 5月27日(日) 13:00～16:00(雨天決行)

【場所】 江東区文化センター 6階第1・2会議室(集合場所)
仙台堀川公園ポケットエコスペース(池の観察)

【講師】 須田真一さん(東京大学大学院研究員)

【内容】 1. 須田先生にアメリカザリガニの生態を中心にお話をうかがいます。
2. 須田先生といっしょに仙台堀川公園ポケットエコスペースに行って、アメリカザリガニの入ってしまった池を観察します。
3. アメリカザリガニを退治する方法をみんなで考えます。

【定員】 20名(申込先着順・定員に及び次第締め切り)

【申込】 電話にて 03(3647)9426
江東区土木部水辺と緑の課 計画調整担当

【主催】 生物多様性チーム江東(担当:松本 ケイタイ:090-9672-7084)

※本事業は東京都新しい公共の場づくりのモデル事業助成金による「ネイチャーパーク活用ネットワーク構築」によるものです。

生物多様性チーム江東 平成24年度活動報告会

自然の恵み、自然を楽しむ暮らし方

ネイチャーパークをつくらう！

3月20日(祝水) 申込不要 参加無料

午前部 ネイチャーパークを疑似体験
ネイチャーパークで遊ぼう

10:00-11:00
自然とあそぼう☆講座
幼児親子の遊び体験！雨が降ったら雨遊び！
泥んこアート
抜き型や泥輪筒で作品を作ります。
まきまき種まき
新聞紙をまきまきして作るポットに種をまきまき！
くるくるみどりのリサイクル工作教室

11:00-12:00
おしゃべりタイム
もっとネイチャーパークを楽しみたい！
身近にネイチャーパークをつくりたい！
子どもを自然の中で遊ばせたい！ etc
ネイチャーパークについて色々話しちゃおう！
お子さま同伴でどうぞお気軽にご参加ください。

会場：江東区教育センター 大塚庁舎
(江東区東横 2丁目 3-6、03-3645-7121)
最寄駅：東横線「東横町駅」徒歩3分



午後部 生物多様性チーム江東
チーム江東の活動紹介

14:00-18:30
2012 活動紹介
子どものためのネイチャーパーク・ワークショップ
自然環境を再生した公園づくりワークショップ
アメリカザリガニモニタリング
アメリカザリガニ二階課本
自然観察会
ジュニアスクール
今後の取り組み
生物多様性地域戦略の策定を目指して



生物多様性チーム江東
お問い合わせは、 info@teamkoto.net

※本事業は、東京都新しい公共モデル事業助成金による「ネイチャーパーク活用ネットワーク構築」として、生物多様性チーム江東が運営しています。本事業は、事情により開催内容等に変更がある場合がございますので、ご了承ください。



BJS Biodiversity Junior School
**ぼくらの力で
 生きもののすみかを
 つくる・まもる・そだてる!**

**生物多様性ジュニアスクール
 体験入学コース参加者大募集**

21世紀を生きる子どもたちが生物多様性について学び、
 自分の力で環境問題に立ち向かう、
 平成25年度から、そんな子どもたちを育てる場を
 江東区から発信します。
 今回は、その親子体験コースを募集いたします！

【開催日時】 2013年3月30日(土) 10:00~12:00
 【開催場所】 東京大学総合研究博物館会議室
 【対象年齢】 小学校高学年(新4年生から新6年生)と保護者の方
 【申し込み方法】 生物多様性チーム江東アドレス info@teamkoto.net まで！
 「ジュニアスクール参加申し込み」とお書きいただき、
 参加者のお名前、年齢、メールアドレスを明記し、お申し込みください。

【募集人数】 親子15組(30名)(先着順・定員になり次第締め切り)
 【参加者費用】 無料
 【集合】 9:50 東京大学赤門前(文京区本郷)現地集合
 地図⇒http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/mu01_02.html

【内容】
 「東京の昆虫・今・昔」 須田 新七さん(東京大学総合研究博物館)
 「絶滅にひんする小笠原の蝶たち」 矢後 謙也さん(東京大学総合研究博物館)
 「生物多様性青少年少女を育てたい!!」 生物多様性チーム江東事務局

お問い合わせは info@teamkoto.net へお願いします (応募先: 生物多様性チーム江東)



**生物多様性
 自然観察会**

日差しの中に春の息吹を感じるころ。
 生物多様性って、むずかしい言葉ですが、
 ちょっと近くの公園に出かけると、生き物たちのつながりを感じることが出来ます。そんな観察会に出かけませんか。

日時 2月17日(日) 9:30~12:00
場所 横十間川親水公園~仙台東川公園ポケットエコスペース
集合場所・集合時刻
 江東区役所正曹入り口 母子像前 9:30集合
対象 どなたでも30名(小学生3年生以下は保護者同伴)
 申込先着順
【申し込み方法】 生物多様性チーム江東アドレス info@teamkoto.net まで！
 「観察会参加申し込み」とお書きいただき、
 参加者のお名前、年齢、メールアドレスを明記し、お申し込みください。
持ち物 特になし
費用 無料
雨天 小雨決行・中止(当日朝の場合7時頃までに開催の可否を運営
 団体よりお電話で連絡します)
主催・運営 生物多様性チーム江東

この観察会は東京都新しい公共の場づくりのためのモデル事業助成金を活用して行っています。

○ 記録写真 ○ (※平成23年度報告、平成24年度中間報告分を除く)

外来種駆除大作戦：2012年6月～(継続中)



最終報告会：「江東区版ネイチャーパークを考えてみよう」2013年3月20日



生物多様性自然観察会：2013年2月17日



生物多様性ジュニアスクール親子体験入学コース：2013年3月30日



参考資料

1. 「子どものためのネイチャーパークを考えるワークショップ」実施報告
2. 「生きもののためのネイチャーパークを考えようワークショップ」実施報告
3. 「ネイチャーパーク活用ネットワーク事業報告会」実施報告

2012/7/7 子どものためのネイチャーパークワークショップ①報告

スライドショーと意見交換で、ネイチャーパークへの思いを共有

今回は天候がすぐれぬなか、10名の方が出席して実施しました。

講座前半は、NPOマザーツリー自然学校中安敬子さんによるスライドショーとお話でした。

子どものさまざまな写真を見ながら、みんなで子どものためのネイチャーパークのイメージをふくらませました。後半は、スライドショーを経て、近くの席の人と2人一組になって、感想を意見交換。その後、「江東のネイチャーパークのここが大事！」をそれぞれ考え、発表しました。

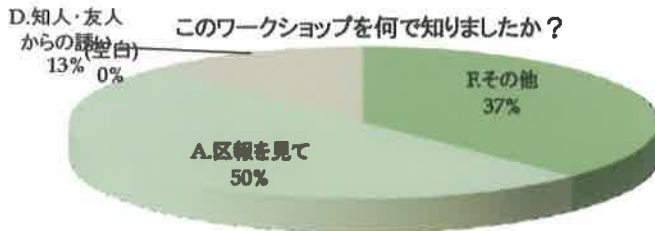
最後には、参加者みんなで発表したシートに「いいね！シール」を貼り、考えの方向性を確認しました。

さまざまな言葉で表現したなかにも、大きな方向性は見えてきたような印象でした。



アンケート結果

このワークショップを何で知りましたか？



講座の感想



- ・ ネイチャーパークについての意識が高まりました。
- ・ 皆がほぼ同じような考えでできることが分かりよかった。
- ・ このような会なので、方向性は同じになるはずだが、実際に形にしていけるのは容易ではないと思う。
- ・ 津市が汚い、虫が怖いという親も、その恐れを乗り越えられる娘ものにはできないかな。
- ・ そのような親が安心して子どもを連れてこられるような公園が理想的です。
- ・ 坂本さんてどんな人？
- ・ このような場所を作ること、作っていくことに興味があり、作っていきたくて勉強中です。一緒に考えていきたいです。
- ・ ワークショップというものに参加したのが初めてなので、何がどのように進んでいくのかドキドキで楽しかったです。もっといろいろな方とお話してみたいです。
- ・ ネイチャーパークが身近にたくさんあるということになればいいな。
- ・ さまざまな考えや思いがあり、とても刺激になりました。

- ・ 大人の意見交換も大事ですが、自然の中で遊んでいる子供(さまざまな年代)の意見を聞いて、取り入れるのも大事なのではないかと思います。
- ・ 育て方の方法が良くわかりました。
- ・ イメージがふくらんでGood!
- ・ 思い、願いと理想に昇華される予感、期待を感じました。
- ・ 今日の意見から、自分なりにネイチャーパークの具体像をさらにふくらませたいと思います。
- ・ 参加された方々の「ネイチャーパーク」に対する思いがいろいろ聞けて良かったです。
- ・ 普段、なかなかかかわることのできない公園づくりを考える良い機会だと思うので、このワークショップに限らず、広く世の人々に知って、参加してほしいですね。
- ・ ネイチャーパークの事例をいろいろ知りたいです。
- ・ 子どもの意見を聞くと、また違った視点が出てくるかも知れませんね。8/4は面白そうなのですが、仕事で参加できず、残念です

■当日プログラムと実施体制

当日プログラム

9:00-10:00	準備(設営、物品のセット)
10:00-10:05	あいさつ 江東区水辺と緑の課 清田 (以下、進行 坂本)
10:05-10:10	アイスブレイク
10:10-11:00	お話「ネイチャーパークの楽しさってこんなこと」
11:00-11:05	休憩
11:05-11:40	意見交換「私だったらこう楽しみたいネイチャーパーク」
11:40-11:50	おわりに

当日参加者と内訳

一般参加者 10名 チーム江東 10名(?)

当日体制

江東区:清田、諏訪
 チーム江東:阿河、松本、斉藤
 マザーツリー自然学校:中安、中山
 C-ROW:坂本

■当日使用ツール(縮小版)

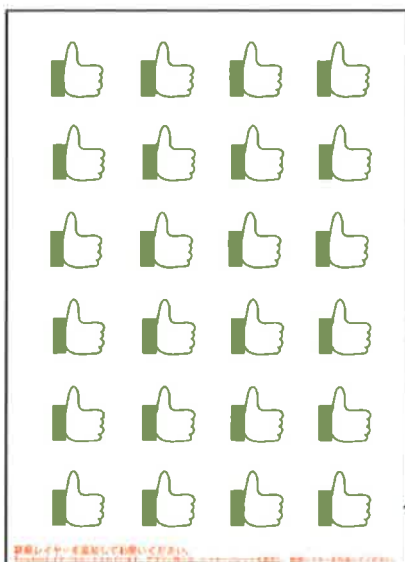
平成21年度 江東区ネイチャーパークワークショップ

個別シート

名前 _____

スライドの事例紹介を見て
 スライドを見て感じた感想
 ネイチャーパークってこんなところかな？
 と気づいたこと、何でもお書きください。

裏面にアンケートがあります。併りまでにお書きください。



← いいね! シール

2012/8/4 子どものためのネイチャーパークワークショップ②報告

子どもの自然遊びをみて「子どもの自然遊び」をもっと知ろう

当日は猛暑の中、13名の大人(含むチーム江東メンバー)と、5組の親子が出席して夢の島公園とBumbで実施しました。

今回のワークショップでは、別途募集した4歳から6歳の子どもの自然遊びをみながら、子どもの自然遊びの実態を理解する目的で行いました。子どもの自然遊びを見る前に、大人にはどんな遊び方をするかを予想してもらいましたが、実際見てみると予想外のことがたくさんあり、その違いについて意見を出し合いました。

実際の子どもの自然遊びでは、個性に応じて、木の根っこをひたすら掘り続ける子、切り株を使って遊ぶ子、虫を探す子などさまざまなかわり方で時間を過ごしていました。

遊ぶ内容だけでなく、運営方法や大人とのかかわり方など、具体化に向けた論点が明らかになってきました。

子どもの保護者は、子どもの自然遊びが終わるまでの間、前回実施したスライドショーを見たうえで、自己紹介をしました。

「子どもに自然遊びをさせたいが、どうやって遊ばせたらいいかわからない。」「江東区でも自然遊びができるんだと感じた」といった声が聞かれました。



当日出された主な意見



▲子どもの遊びを見る前の予想

具体的にこんな遊びが起こるんじゃないかとさまざまなアイデアが出てきました



▲子どもの遊びを見る後のふりかえり

抵抗なく行動できる、走り回らない、環境に順応するまで時間がかかる、大人のかかわり方などネイチャーパークづくりに大事になりそうな要素が抽出されました

■当日プログラムと実施体制

当日プログラム			
9:00-9:30 (9:15～)	準備(設営、物品のセット) 受付		
	大人プログラム	子どもプログラム	子どもの保護者プログラム
9:30-9:45	はじめに		
9:45-10:05	考えてみよう 「子どもの自然遊びって...」	子ども受付	
10:05	子どもの自然遊びに合流 (見てみよう、参加させてもらおう)	自然遊びを体験しよう	スライドショーとお話、意見交換 「ネイチャーパークの楽しさってこんなこと」
11:20	子どもの話を聞こう	感想を話そう	子どもへ合流し、話を聞く
11:35	意見交換 「子どもの自然遊びを子どもの視点で考えよう」	終了	
12:05	おわりに		
12:10	終了		
当日参加者と内訳			
一般参加者	5名	チーム江東	8名 親子 5組
当日体制			
江東区:清田、諏訪 チーム江東:斉藤 マザーツリー自然学校:中安、中山、梅澤 C-ROW:坂本			

■当日使用ツール(縮小版)

中東区立 自然公園 マザーツリー自然学校

開催シート

日時

①子どもの自然遊びを見る前に
こんな遊びをするんじゃないか、こんなもの、これに関心をもちそうだなと意識してみましょう。

②子どもの自然遊びを見た後
①で気づかなかった点や新たな発見、意外だったことなどを報告ください。

※実際にアンケートが実行されます。発行後にお返事ください。

実施後の運営のふりかえり

1. 申込み対応

- 子どものキャンセルが多く、キャンセル待ちの枠も採っていたが、対応しきれなかった。
→キャンセルをする場合は、必ず連絡するよう、注意書きを添える。
→多めの当選枠を設ける

2. 時間管理

- 冒頭時間がおしてしまい、子どもの自然遊びの時間が予定より若干減ってしまった。

3. 会場の設定

- もう少し利便性のよい場所(身近な場所)で設定できないか?
- もっと生きものがあるような場所で設定してもよかったのではないか?
- いきもの多様性は、場所だけでなく四季や管理状況にもよってくる。
- Bumbでは若者利用が少ないので、今回のようなプログラムはぜひ今後もやってほしいという声があった。

4. 盛り上がりにつけた

- 今回募集の子どもは、自然なレシてない子ばかりだった。ただ時間を経て、ステップアップしていった。その頃、時間となってしまったので、子ども達にとっては消化不良もあるかも知れない。

5. フィードバック

- 今回は慌ただしかったこともあり、保護者から子どものプログラム後の反応に対する声が聞けなかった。
- 1週間から2週間後にメールでお礼も兼ねて、声を聞くことはできないか。

2012/8/25 子どものためのネイチャーパークワークショップ③報告

子どもの自然遊びをみて「子どもの自然遊び」をもっと知ろう

当日は20名が出席してワークショップを実施しました。今回のワークショップでは、3回のワークショップの最終回として、当日の会場森下文化センターに隣接する高森公園を例にとり、デザインゲームというシートやカードを使った計画づくりを3グループに分かれて、実施しました。今回のワークショップのねらいは、つぎの2点でした。

1. これまで出された子どものためのネイチャーパークの大事な視点やポイントを確認しよう
2. デザインゲームという計画づくりをとおして、大事な視点の優先順位や実際作るうえで、問題(あるいは議論)になりそうなポイントを発見しよう

2時間のワークショップで、各グループ熱心にディスカッションし、コンセプトを決め、その後は、どんどん手を動かし、工夫を凝らした公園プランを作り上げていました。

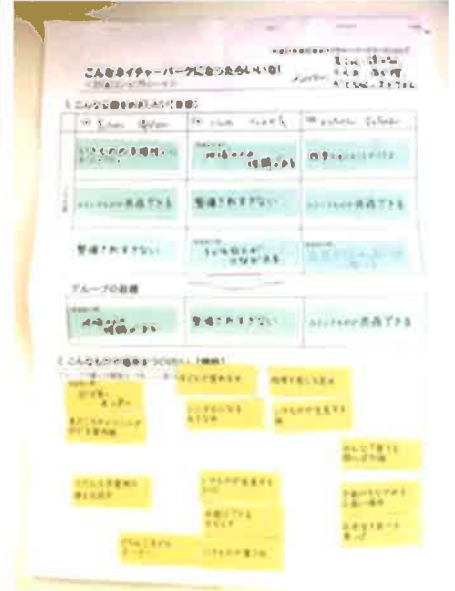
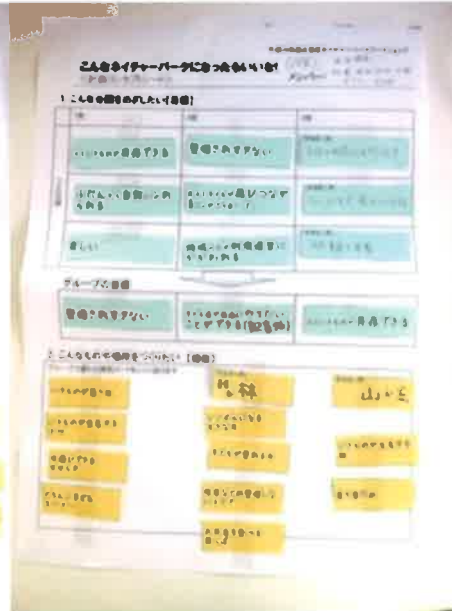
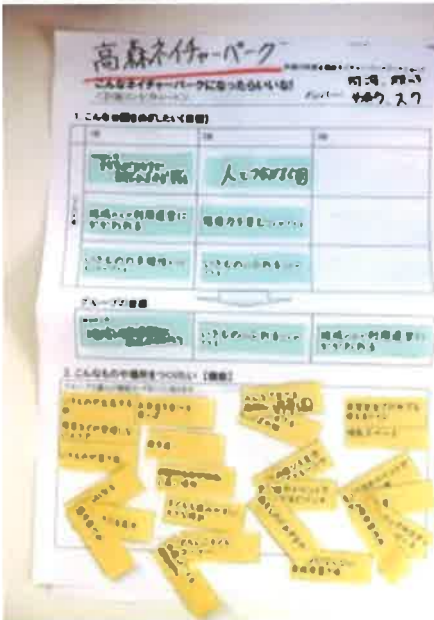
ワークショップの最後には、「とても楽しかった」「今後もこうした活動に参加したい」など意欲的な声をたくさん聞くことができました。



■1班 高森ネイチャーパーク

■2班 高森夢公園

■3班 かざぐるま



当日のアンケートより

▼当日のワークショップの感想(自由記入)

- 参加者が多いほど、多彩なアイデアが集まる。
- 今回の成果を集約する機会があると良い。
- イメージを「カタチ」にしてゆくのはとても楽しい。
- アプローチが3つのグループで少しずつ違ったので、さらにそれを「1つにまとめ～」などしていったらそれも楽しそう。
- 知性や体育教育的な機能をネイチャーパークに期待させるものにできないだろうか。
- 子どものネイチャーパークにとって必要な要素が3回のワークショップを通して見えてきました。
- 特に子どもにとって生物多様性の豊かな場所を身近な場所に作っていくことで、子どもの感性をより豊かなものに育てていくことができると感じました。
- 話し合いの中で夢をふくらませることができて良かった。
- 現実に夢のような公園を作るのは容易でないかも知れませんが、できるところから少しずつでも現存する公園も改善できたら良いと思います。
- ワークショップが現実のものとなるように。
- 時間がないなか、皆様楽しくそしてりっぱな公園づくりをしている様子が楽しくもほほえましく思いました。
- 公園イメージ作りをカードを使いながらする手法は早くイメージを固定化させるのに良かった。また、樹木の絵、子どもの活動の絵を貼ってイメージを固定化させている手法もよかった。
- ワークショップで、具体的な公園のイメージがつくれて、とてもよかったです。
- 自然遊びの大切さをみんなが知ってくれたら...
- 皆が参加し、協力し合って、ネイチャーパークをプランし、作り上げられれば、末永く公園の運営・管理にも積極的に参加・参画意欲が湧くと思う。
- そして、よりよいものに作り上げ続けることができる。そんな仕組みづくりを期待したい。
- グループで話し合っていると、同じような思いを皆さんお持ちだなあと感じました。私の世代では、すでに公園はコンクリートで固められ、遊ぶのは遊具だったため、グループの皆さんのお話は大変面白かったです。

▼今後、ネイチャーパークを実現するためのアイデア(自由記入)

- 今回参加した方が「他のプロジェクトにも参加したい」と思っていた内容にして、多くの方にかかわりネイチャーパークを実現したい。
- 江東区の自然環境とは...ということを確認にして、実現したいと思います。
- 重要なことは、自然を身近なものとして大人が積極的にかかわることだと思います。
- 大人への啓蒙、教育活動もあわせて展開していくことができると強い協力が得られることにならないでしょうか。
- 仲間を増やそう
- 3Gのりっぱな公園、でもなんか足りないな～なんだろう!!



- こうした公園で例えば笹舟作りをおじいさん達とする姿が将来あったりしたらいいなあと思います。
- とても楽しく、勉強になりました。ただ...時間が短い。見て、聞いて、考えて、作って、発表して...が2時間というのは短いなあ～と思いました。せめて、他チームの方々の意見や発表をふまえて、さらに...という流れが欲しかったな...と思います。でも！内容は充実していて、ホントに楽しかったです。また機会があれば、ぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。
- それぞれの意見や思いをまぜて、考えたり、イメージをふくらませながらの共同作業は楽しかったです。ワクワクしました。
- いつでも身近に遊べる公園みんなで、ぜひ実現させたいです。
- 子ども達のために考えること、いきものや自然に目を向ける意識を向けること、何ができるかな一つという姿勢を受け継いでいくのも役割かなと。
- こんなワークショップももっと増えたらいいな、考えていかなければなあと思います。
- 都会の子どもが自然を使った曾比になれていない現実を認識することができた。
- 手を動かしてイメージ図を作成できたのも良かった。
- 一方、もっと参加者の方と仲良くなり、肩肘張らずに話をしたかった。さらに今回の活動が将来現実にどう活かされるのか。
- 都内にネイチャーパークを作る、夢のような発想!!
- 少しずつ何とか具体化したい気持ちがいっぱい!



当日プログラムと使用資料

当日プログラム

9:00-10:00	準備(設営、物品のセット)
10:05-10:10	あいさつ 江東区水辺と緑の課 清田 (以下、進行 坂本)
10:10-10:15	今日の進め方
10:15-10:25	前回のふりかえり(マザーツリー自然学校 中安)
10:25-10:30	グループワーク「デザインゲーム」の進め方と現場確認
10:30-11:30	グループワーク(計画コンセプトづくり→プランづくり)
11:30-11:40	できあがった作品のミニ発表会
11:40-12:00	アンケート記入、参加者よりひと言感想
12:00-12:05	おわりに(阿河)

当日参加者と内訳

一般参加者 10名 チーム江東 10名(?)

当日体制

江東区:清田、諏訪/チーム江東:阿河、松本、斉藤、大原、マザーツリー自然学校:中安、C-ROW:坂本

▼当日配布資料



▲プランづくりツールを使った作業の様子

▼計画コンセプトづくりツール

▼プランづくりツール

生きもののためのネイチャーパークを考えようワークショップ 第1回目 2012年8月8日(土)9:30~12:00

■江東区内の自然地及び生きものの観察会

今生きもののためのワークショップを考えようは、ネイチャーパーク活用ネットワーク事業におけるワークショップのひとつ。ネイチャーパークをつくるときに大事にしたい点を「生きものの視点」から2回にわたって考えます。

今回は江東区の自然地を訪れ、観察会を通して江東区の自然環境や生息する生きものについて学びました。当日は曇空が広がり、過ごしやすい天候のなか、17名の方が出席して実施しました。

■仙台堀川公園ポケットエコスペース

当地がビオトープとなった経緯を紹介した後、10分間の生き物採取。採取した生きものは、種名と生息する環境(草地・木・池)について清田さん・阿河さんが解説しました。参加者は東京都レッドリストに指定されているショウリョウバッタモドキや、アズマヒキガエルに反応を示していました。

また、当地で実施している「外来種駆除作戦」について、担当の松本さんから紹介があり、参加者から「捕獲したザリガニのその後の対処や、トンボが減っていること」に関しての質問・意見がありました。

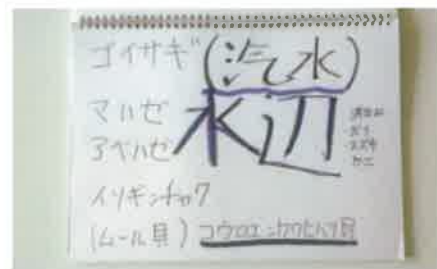
■仙台堀川公園ポケットエコスペースで観察した生きものの記録(生息環境毎)



■やすらぎの滝

セル瓶やタモ網で生きもの採取後、観察。汽水域に生息する生きもの(イソギンチャクの仲間やハゼの仲間)が江東区内の公園で見つかることに参加者は驚いていました。それらの生きものが生息している理由として、仙台堀川よりサイフォン式で通水していることを伝え、当地の水質が汽水であることを実感してもらうために、参加者には舐めて体験(やや塩辛い)してもらいました。

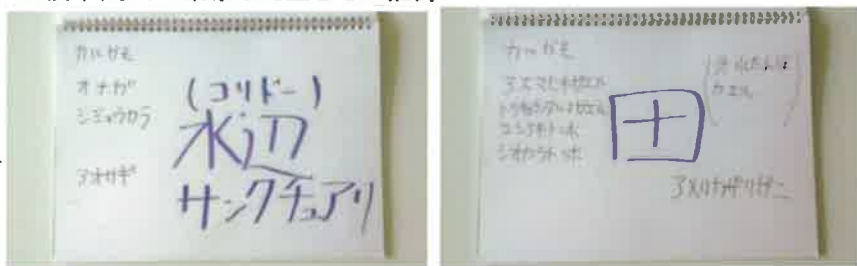
■やすらぎの滝で観察した生きもの記録



■横十間川親水公園

遊歩道を通り、「野鳥の島」・「たんぼ」・「湿地生物群復元実験区」の順に観察しました。「野鳥の島」では人の立ち入り禁止区域にすることで野鳥を保護していること、たんぼでは冬水たんぼを行うことでカエルの産卵場所となっていることなどを解説。最後の観察地となった湿地生物群復元実験区では、整備が始まった経緯やその成果について紹介しました。

■横十間川で観察した生きもの記録



観察会終了後、今回確認した生きものの振り返りを行いました。次回のワークショップでは、江東区にネイチャーパークをつくるとしたら、「どのような生きものを呼びたいのか」、「どのような環境をつくりたいのか」を話し合い、ネイチャーパークをつくるときに大事にしたい視点について考えることを伝えました。

生きもののためのネイチャーパークを考えようワークショップ 第1回目 2012年8月8日(土)9:30~12:00

■当日配布資料(縮小版)

<p>生きもののためのネイチャーパーク を考えようワークショップ①</p>  <p>平成24年9月8日(土) 生物多様性チーム江東</p>	<p>次回のお知らせ</p> <p>今日の研修会で感じ取ったことを全体で共有し、江東区ネイチャーパークをつくるために大事にしたい点について話し合います。</p> <p>日時：平成24年9月22日(土) 8時30分~12時00分</p> <p>場：江東区教育センター 8階 会議室</p>  <p>連絡先 (江東区水道と緑の課 みどりの課)</p> <ul style="list-style-type: none"> TEL 03-3647-2079 FAX 03-3647-9287 	<p>●観覧会のコース</p>  <p>1. 野鳥の島公園「ポケットエコスペース」</p> <p>2. 野鳥の島公園「やすらぎの滝」</p> <p>3. 野鳥の島公園「水辺の島」</p> <p>4. 野鳥の島公園「生物の島」</p>	<p>●観覧会に参加して</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観覧した生きものなかで、印象に残った種類は何ですか？また、その理由は？ ●江東区の自然について感じたことをお書き下さい ●感想、気づいたことなんでもお書き下さい
---	--	---	---

■ワークシート記入結果

●観覧した生きものなかで、印象に残った種類は何ですか？また、その理由は？

- ・ゴイサギ: 遠くから見ると地味で、じっとしていたが、双眼鏡で見たら、赤い目、鋭い口ばし、獲物を狙っている野性を感じた。
- ・ザリガニ: ザリガニ獲りを実施してくださったので、よくわかった。赤くて、丸々と太ったザリガニは、食用のエビのようだった。ザリガニの繁殖力の猛威の話は説得力がありました。
- ・ポケットエコスペース: とんぼが少なくなったこと。アメリカザリガニ。やすらぎの滝: イソギンチャク(汽水)。野鳥の島: 青サギ。
- ・バッタの多さ。草地の茂みがあると繁殖する！
- ・イソギンチャク。町の中の川で見られるとは思いませんでした。
- ・バッタ他(今では)昔は沢山いた生物が少なくなった印象。

●江東区の自然について感じたことをお書き下さい。

- ・汽水の親水公園、野鳥の島、田んぼ、各エコスペース等、長年に渡って計画的に作られ守られて来た成果が都会に居ながら、日本の原風景の自然を感じることができる現在に実を結んできていると思う。昔の木場の貯木場や舟による流通のなごりが、運河や公園、エコスペースとして残り、広々とした開放感がある。23区の中では、緑が多いと思う
- ・都市型/河の水をそのまま利用。都市側自然として、自然のものをそのまま使っていること。
- ・真水と海水が混じり、生物が多い都市と思う。
- ・運河、河川で水性生物が見つかり楽しめる。
- ・全く自然が失われているような印象をもっていました。原自然を守り、回復させようという努力の一端がうかがえました。
- ・川がかなり良い条件で、残っていると感じた(木場だったせいも)。

●感想、気づいたことなんでもお書き下さい

- ・皆さんが江東区の自然をよみがえらせ保全するために、いかに力を注いで来たかよく理解できました。また私自身30年近くこの地に住んで来て、公園が整備され、ピオトープが増え、緑が広がってきたこと実感しています。
- ・汽水: 自分で嘗めて見ないと、子供達にしょっぱいと言っても伝わらないという話が印象に残っています。
- ・アメリカザリガニの増殖している現在、駆除にがんばっている方々に頭が下がる。
- ・良い機会をありがとうございました。
- ・直ぐ近くにマンション(特に南側)がそびえているのを、なんとかならないか。
- ・時間が不十分

生きもののためのネイチャーパークを考えようワークショップ

第1回目 2012年8月8日(土)9:30~12:00

■当日プログラムと実施体制

当日プログラム	
8:30-9:30	準備(打ち合わせ・昆虫採集・セル瓶設置・集合場所の案内)
9:30-9:35	あいさつ 生物多様性チーム江東 阿河会長(以下、進行 大原)
9:35-9:50	自己紹介
9:50-9:55	今日の進め方
9:55-10:35	仙台堀川ポケットエコスペース(ポケットエコスペースの紹介→昆虫採集→生きものの観察→外来種駆除作戦の紹介)
10:35-11:00	仙台堀川やすらぎの滝(生きもの採取→生きものの観察)
11:00-12:05	横十間川親水公園(遊歩道・野鳥の島・田んぼ・植物保護区)
12:05-12:15	まとめ
12:15-12:20	ワークシートの記入
当日参加者と内訳	
一般参加者17名(子ども2名) 生物多様性チーム江東7名	
当日体制	
江東区:清田、諏訪/生物多様性チーム江東:阿河、井上、栗原、斉藤、松崎、松本、山田	

■実施後の運営のふりかえり

1. コース

- ・北砂小学校ビオトープを観察ルートから外したことで、ゆったり観察することができた。
- ・仙台堀川ポケットエコスペース、やすらぎの滝、横十間川親水公園の3箇所、それぞれの環境を代表する生物が見つかった。
- ・真夏に実施する場合は、熱中症・日射病対策をとる。
→塩飴、日陰の確保など。

2. 時期

- ・暑い季節だが、夏季と秋季の生きものを観察することができて良かった。

3. フィードバック

- ・仙台堀川と横十間川が大規模緑地(木場公園や荒川)を回廊としてつなぐ役割があることを十分に伝えられなかった。

4. ネイチャーパークの目標

- ・最後の観察場所となった植物保存区に入ったとき、子どもたちが自然と遊び始めた。これがネイチャーパークの理想像ではないか。
- ・ネイチャーパークの存在意義は、生きもの好きの子どもが増えること。
- ・江東区版ネイチャーパークを考えるには、「子どもためのWS」「生きもののためのWS」の意見を戦わせるのではなく、それぞれの意見出しで考えていくのがいいのでは。

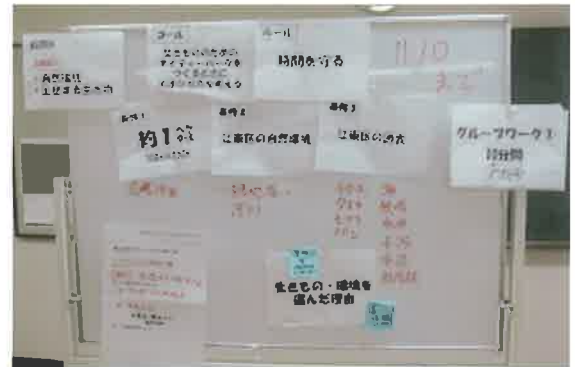
生きもののためのネイチャーパークを考えようワークショップ 第2回目 2012年9月22日（土） 1/5

■生きもののためのネイチャーパークをつくる時に大事な視点とは

「生きものの視点」から考えるネイチャーパークづくりのワークショップの2回目。今回は、第1回目の観察会で感じたことをふりかえり、**江東区にネイチャーパークをつくる時に大事にしたい視点**について考えることを目的に、ワークショップ形式で実施しました。

限られた時間内に全員の意見が集約されるのか心配でしたが、話し合いに3つの条件をつけたことで、意見が拡散しきらずにまとまりました。ネイチャーパークを取り入れたい環境としては、「草地」「汽水」

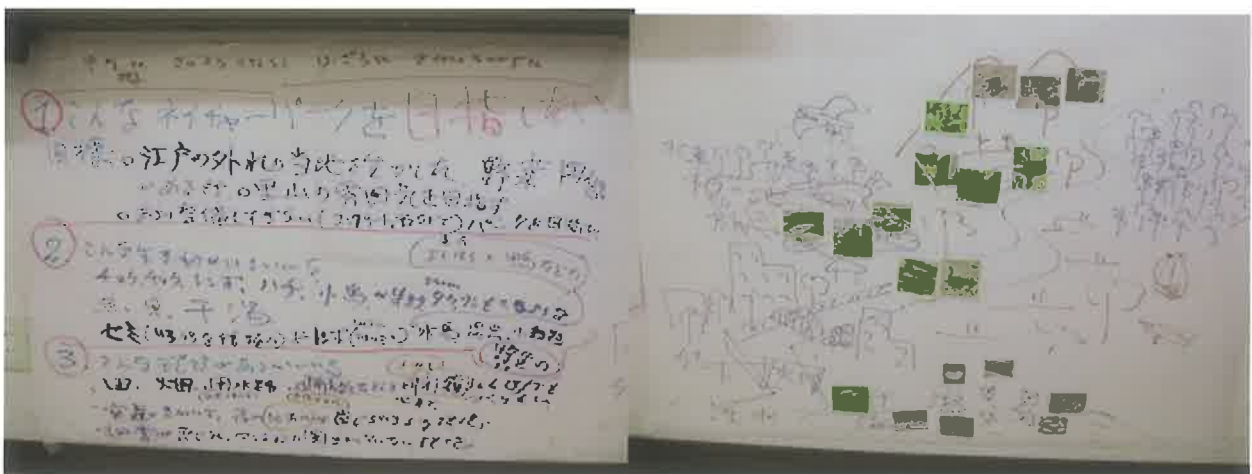
「湿地」が挙げられ、実際に造るときには周辺の環境を意識することが大切と話し合われました。



ワークショップの3つの条件など
当日使用したホワイトボード



(上) 萩原・山田・久保田・阿河・諏訪グループ
(右) 松本・松崎・荒川・岡野・阿部・清田グループ
(下2枚) 中川・斉藤・李・酒井グループ



生きもののためのネイチャーパークを考えようワークショップ 第2回目 2012年9月22日（土） 2/5

■ アンケート記入結果

● 当日のワークショップの感想

- ・より多くの自然を取り入れる願望が強い。
- ・昔を取り戻したい（あたりまえのこと）
- ・自然、生きものが好きでも「好き」のアプローチはみな様々。さらに自然が好きでない人も「まち」への関りとしてネイチャーパークを考えるなら、さらに難しいだろう。目標・コンセプトをブレさせないようにしながら計画をつくるようになっていかなくてはと思う。
- ・生きもののためのネイチャーパーク第1回目で見たイメージを形にする事が出来てよかった。
- ・具体的なネイチャーパークを目標・理由を考えながら合意していくプロセスはとても良かった。
- ・いろいろな話が聞けて楽しかったです。ペランダエコスペースの充実を図るつもりです。
- ・なんの制約もなく夢を語る場で楽しかった。この段階から多くの人々に関わってもらえれば、愛着をもってつながれる人間関係が構築できるのでは。
- ・みなさん「江東区らしさ」を意識しているところが素晴らしい。
- ・大変すばらしい会（もよおし※催し・発表とはいわず）で感心しました。（専門的な方もいますし、すばらしいと思います。）
- ・楽しかったです。人の意見が聞けて！
- ・考える教材が多くあり、考えもまとめやすかった。
- ・グループワークでは多様な考えが出され、参考になった。
- ・江東区という都心にありながら、自然、生きものとの共生についてよりよくしていこうとしている人達に出会えてよかったです。こういう場に参加するのは初めてですが微力ながら自分も貢献できるようにしたい。
- ・当初は2回のワークショップではまとまらないのではないかと考えていましたが、皆の意見を聞いて、発言していくうちに、皆の考えは大筋近いものがあるとわかり、安心すると同時に、将来実行する段階になった時には大きなパワーになりうると思いました。
- ・楽しかったです。皆さんがいかにか小動物、植物好きなのかわかりました。これから勉強します。
- ・江東区の自然と生きものについて、しぼりこ込みができました。
- ・淡水環境と汽水環境の自然をどのように回復するのが課題ですが、1haという制限の中で、そうした公園を区内にいくつも配置したり、既存の緑地の質を高めて、つなげてゆくことで、より自然度の高いネイチャーパークが実現することと思います。
- ・夢の少ないこの頃、皆で喧々譁々夢を創りあげる状況が良かった。
- ・既存の公園とのかかわりなくしてこれからの江東区でのネイチャーパーク作りの難しさがわかった。しかし、将来をみて、自然豊かな大・小動植物が生きていける理想の場所がほしい！

● 今後、ネイチャーパークを実現するためのアイデア

- ・完成（イメージ）からスタートし→計画やアイデアを皆が参加し共有する。
- ・ネイチャーパークの各グループイメージからもしそれらが造れたら人々が得ることができるメリット機能的なことを研究したい
- ・具体的にこんなネイチャーパークが欲しいとみんなで思い続けるキモチ。
- ・そんな土地活用の機会を是非作り出し、ここにいるメンバーがさらに拡がり、実現させたい。
- ・地域の住民、企業をエコロジカルネットワーク（コリドー）に参加してもらい大面積のネイチャーパークが当然あるべきと思わせる下地をつくる。
- ・生物多様性地域戦略を住民主導で作る。
- ・地域、住民（区民）を巻き込んだ活動。
- ・秋の鳴く虫を聞く会など、自然を楽しむイベントを多く作る。
- ・ネイチャーパークについてのシンポジウム、パネルディスカッション。
- ・子どものための、生きもののため、楽し遊べて学べるネイチャーパークをぜひ江東区に作ってください。
- ・大切なのは人のつながりを広げていくことだと思う。周辺住民は維持管理の担い手になる。
- ・元からの自然を生かすと、生物が早く呼び戻せる。淡水池から海までのつながりがあると良い。
- ・とにかく、江東区として、恵まれた面も多いと感じましたが（汽水の運河が広いなど）、とにかく高層マンションがどんどん建つので、心配です。
- ・うまく既存のなけなしの自然区域を守り広げ、つながれると良いのですが、いろいろ害虫や害のある人もいますし、それらを防いでいく方法やアイデアとしたいと思います。まずは駐車場となることを防ぎ（禁止）たいと。それと、害虫が発生することを薬をつかわず防ぐことも必要かと。

生きもののためのネイチャーパークを考えようワークショップ 第2回目 2012年9月22日（土） 3/5

●今後、ネイチャーパークを実現するためのアイデア（前頁の続き）

- ・植物→虫→小動物→人間（自分）とが、関わっているんだなあ～と感じれる公園づくり。
- ・1haという広さに何もかもつめこむのはむずかしい。淡水湿地にしようというアイデアは良かった。
- ・企業とのコラボはどうか。フジクラ、IHIなど。
- ・いろいろな意見があり、理想を求めるとキリがないから、サイトが定まったらその場所の適性を良くみて、実現可能な（ある程度の狭い）範囲で時間をかけて取り組み、継続的に同じ見方を維持していく管理体制の構築が必要なのではないでしょうか。その際その環境での生態的に上位に来るべき生物を目標として設定したい。
- ・3グループの発表がどれも素晴らしい！！が土地の大きさなどあり、考えてしまいますね。今回は生きものが主でしたが子どもの主点が出ていないのが残念でした。
- ・学校など教育機関との連携を強めるために大学生など若い世代の参加を促す。
- ・ワークショップの内容を広く、友達などに伝える。
- ・とにかく、いろんな関連行事に参加する。
- ・行政、研究者、市民、企業の連携の場づくりの積み上げが大切と思う。小さな事例から。
- ・区民のネイチャーパークに対する関心度を高めたい。その声を区・都・国に伝えたい。

■実施後の運営のふりかえり

●今回のワークショップ

- ・条件をつけたことで、拡散しきらずに進んだ

●全員の感想を聞いて

- ・「ネイチャーパーク」のイメージが人によって違う、共通認識されていない。
- ・「ネイチャーパーク」の事例を勉強し、江東区の目指す姿を決める。

●プチワークショップに向けて

- ・参加者が1回目の観察会より減った。NL江東メンバーや子ども連れ1組。
- ・子どもの対応が大変だった。
- ・参加者が集まるのか。特に子ども連れ。
→預ける場所があれば良い。専門家の中安さんにアドバイスを求む。

●その他

- ・各都道府県市町村の地域戦略はどこも子どもの視点がない。江東区ではやっていきたい

生きもののためのネイチャーパークを考えようワークショップ 第2回目 2012年9月22日（土） 4/5

■ 当日プログラムと実施体制

当日プログラム	
8:30-9:30	準備(打ち合わせ・机の配置・写真素材の切り取り・下見)
9:37-9:45	あいさつ、前回の振り返り（以下、司会：大原）
9:45-10:20	スケジュール、ワークショップの進め方(全員が同じ目標に向かって話し合うための3つの条件を設定) ①江東区の歴史を意識する 清田事務局長 ②江東区の現在の環境を意識する 阿河会長 ③ネイチャーパークの面積を1haとする
10:20-10:35	個人作業 ①ネイチャーパークの目標をポストイットに書き込む ②目標を実現するためには、どんな生きものや環境があったら良いのか。各パーツから選ぶ。 ③各パーツを選んだ理由をポストイットに書き込む
10:35-11:10	2人1組で意見を出し合う、その意見を整理して、ひとつにまとめる。 次に、2～3組のグループをつくり、同様の作業を行う。
11:10-11:30	全体発表
11:30-11:40	まとめ
11:40-12:05	アンケート記入、全員から一言
12:05-12:10	主催者よりあいさつ 清田事務局長
当日参加者と内訳	
一般参加者9名(子ども1名) 生物多様性チーム江東9名	
当日体制	
江東区：清田、諏訪／生物多様性チーム江東：阿河、斉藤、松田、松崎、松本、中瀬、山田	

■ 当日配布資料(縮小版)

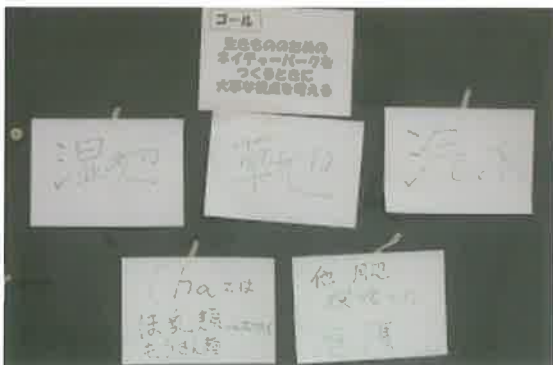
環境パーツ



生きものパーツ



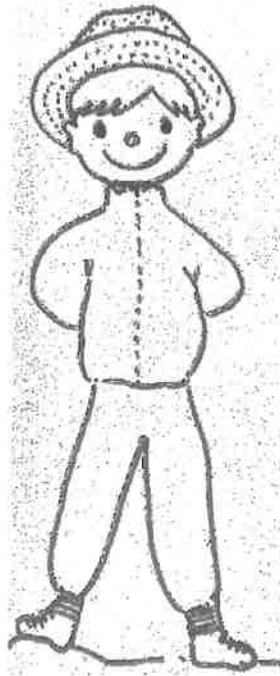
生きもののためのネイチャーパークを考えようワークショップ 第2回目 2012年9月22日（土） 5/5



ネイチャーパーク活用ネットワーク事業報告会

自然とあそび、自然を学ぶ 『ネイチャーパークをつくろう！』 実施報告

13/03/27 ver.



生物多様性チーム江東

企画概要

2.プログラム時間割

9:00-10:00	設営	
10:00-12:00	ネイチャーパークであそぼう！ ネイチャーパークを疑似体験	
	A.自然とあそぼう☆講座	森遊びを室内に再現。 ・テレビを立てて、子ども達の隠れ家。 ・木の実遊び、小枝遊び
	B.泥んこアート	全国各地のいろいろな土を絵具にして、お絵かき
	C.パネルシアター「外来種ってなに？」	外来種であるアメリカザリガニが入ることによって、生態系にどのような影響があるかを分かりやすくパネルシアターで伝えます。
	D.まきまき種まき	新聞紙と空き缶を使って種まきポットを作り、レタスやマリーゴールドの種をまきます。
	E.どんぐりストラップづくり	どんぐりに顔を描いて、ストラップをつくりマス。
	F.ネイチャースコープづくり	小さな木の実や花を使った万華鏡づくり。 野菜のスタンプ。
	G.休憩&メッセージコーナー	どくだみ茶とマテ茶の提供。 疑似体験をして「こんなネイチャーパークがほしい」のメッセージを書きます。
12:00-12:20	午前の部片付け	
12:20-13:00	午前の部スタッフふり回り	
13:00-14:00	午後の部準備と昼休み	
14:00-16:30	活動報告会	
	1.はじめのあいさつ(阿河) 2.助成事業について(清田) 3.助成事業の報告 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どものためのネイチャーパークづくりワークショップ(中安) 2) いきものためのネイチャーパークワークショップ(大原) 3) 外来種駆除大作戦(松本) 4) アメリカザリガニ副読本づくり(斉藤) 5) 自然観察会(松本) 6) ジュニアスクール、今後の展開(清田) 休憩/質問事項の記入 4.意見交換 5.区役所からのあいさつ 6.終わりに	
16:30-16:50	片付け	
16:50-17:00	スタッフふり回り	
17:00	解散	



企画概要

1.実施概要

- 1) イベント名「自然とあそび、自然を学ぶ『ネイチャーパークをつくろう!』」
- 2) ねらい
 - 午前の部: 小さなお子さん連れの親子と主な対象として、自然と親しむためのアクティビティを行い、チーム江東のPRを行い、今後の活動を支援、協力してもらえるサポーター(ないしはファン)を募る。
 - 午後の部: 新しい公共による助成事業の報告会として、これまでの到達点と、今後の取り組みについて報告、協議する。
- 3) 実施日
平成25年3月20日(水・祝 春分の日)
10時～16時30分
- 4) 主催 生物多様性チーム江東
- 5) 広報
 - チラシ(p.11参照のこと)
 - FacebookやTwitter
 - 生物多様性チーム江東メンバーへのメール告知
 - 過去のネイチャーパークプロジェクト参加者へのメール案内
 - 各メンバーによるチラシ貼り
 - 中瀬さんメーリングリスト
 - マザーツリー自然学校メーリングリスト

実績

1.参加者実績

午前/午後	大人	子ども	総計
午前	22	23	45
午後	13	0	13
合計	35	23	58



「こんなネイチャーパークあったらいいな」メッセージ

・自然とあそぼう☆講座への感想

- 木をたたく単純だけど楽しい。
- どんぐりあそびやテントの中のかくれんぼがおもしろかったです。
- どんぐりころころゲームでいっぱい遊んでたのしかった。またやりたいな。
- どんぐりころころがとてもたのしかった。
木の音楽会いろんな音が出て面白かった。
- どんぐりころころがしがおもしろかったよ とかいてあります(1歳6ヶ月)

・どんぐりストラップづくりへの感想

- どんぐり転がすのとストラップづくりが楽しかったよ！
- どんぐりストラップかわいくできて、うれしかった。
- どんぐりすとらぶをつくりました。じょうずにできたのでうれしかったです。

・泥んこアートへの感想

- 泥んこアートにはまりました。
- 泥で絵を描けるのが斬新で楽しかった。
- どろでえをかきました。たのしかったです。

・まきまき種まきへの感想

- ぜんぶ楽しかったよ！レタス上手に育てて食べます。
- まきまき種まき楽しかった♪枯らさないようがんばります!!

・パネルシアターへの感想

- 手作りのパネルシアターでホックリ気分で参加型
伝えたいことはバッチリ伝わり…嬉しかった!!

・運営について

- 小学生、中学生の方がお手伝いしてくださってうれしかった。ありがとうございます。
- 呼び込みはよかった。一定のにぎわいがあった。

・全体の感想

- こどももおとなも自然の中にいるのが、一番安らぐのでこれからも活動されている方に感謝したいと思います。
- 子ども達の笑顔が良かった！
- 受付での顔より帰りの顔が楽しそうで、来場者が楽しめたのでは。
- 子どもたちによるこんでもらえてよかった!!それがいちばん。
- いっぱいあそんでたのしかった。
- 自然に向き合って遊ぶって楽しいですね♪
- 久しぶりの人と出会える場でした。Have Fun
- 子どもがとても楽しそうに走り回っているのが印象的でした。子どもは元気が一番！
- チラシや区報でしか知ることができなかったけど、実際来てみてみんな楽しそうで、それを見ているだけで、幸せな時間を過ごしました。もっともっと多くの人に広めてください。

「こんなネイチャーパークあったらいいな」メッセージ

・こうしたイベントをまたやろう！

- 毎年やりましょう！第三回は私達の作ったネイチャーパークで。
- より多くということであれば。集客の多いイベント参画の方が◎。
- ネイチャーパークが実現するまでの間、今日のようなイベントを毎年やっていきたいです。
- みんなが楽しそうにしている姿が印象的でした。またこんな場ができると良いな。

・将来のネイチャーパークづくりに向けて

- 受け身の公園ではなく、能動的に世話して愛着を持てるネイチャーパークが良いかな。少々危ないこともできるといいな。木のぼりや水上での綱渡りなど。
- 子ども達が泥んこになって遊べるイベントがたくさんあるといいです。
- 生きものたち、草木とともだち。ずーっと仲良しで大人になって！
- 外でも、ネイチャーパークあるといいな。
- ネイチャーパークで遊ぶとかしこくなるよ!!
- いろんな体験ができて楽しかったです。子どもが自然とたくさん遊べたら良いな。
- 泥あそびは楽しいです!!
- 野外でも楽しみたい。
- 野草と友達になろう。
- ネイチャーパークをぜひ実現しましょう『水』もいろいろアイデア出しをしよう。
- 江東区は本来東京湾の生みの中なので、森や山ではなく水辺で安全に楽しく遊べるネイチャーパークがあったらいいなあと考えています。
- 市民の力
子ども、青年、高齢者皆で会わそう。



意見交換（活動報告会より①）

- **子どもの視点**
 - チーム江東の活動内容に「子ども」を対象としたものが多く見られるのは、なぜか？
 - これから過酷な時代になる将来を生き抜いて子ども自身でアクションを起こしてほしい！
- **子どもといきものの視点の両立**
 - こどものためのネイチャーパークといきものためのネイチャーパーク：両立の視点をどうやって統合して、1つのネイチャーパークを実現するのでしょうか？
 - いきものや自然を子どものうちに感じてほしいという点で通じるだろう。
- **子どもの視点**
 - チーム江東の活動内容に「子ども」を対象としたものが多く見られるのは、なぜか？
 - これから過酷な時代になる将来を生き抜いて子ども自身でアクションを起こしてほしい！
- **江東区の在来の自然とは？**
 - 江東区の在来の自然ってどんなもの？
何を守り、何を排除すればよいのか、もっと詳しく知りたい。
 - 江東区：江戸時代以降の埋め立て地。そのときは、遠浅で湿地であった。そこが1つの基準になるだろう。
- **ザリガニ駆除**
 - ザリガニの害は具体的にどんなこと？
 - アサザの根を切る。ヤゴを食べてしまう。
ザリガニしかいなくなってしまう。
 - アメリカザリガニは絶滅できそうですか？
 - 最後の決め手が課題。
 - ザリガニ駆除に外来種のコイを使うのは、生物多様性の保全上も水生植物の保全上も良くないと思います。
 - 外来種アメリカザリガニへの対策で、コイを放すとありましたが、コイを放すとまた鯉が生物多様性を占めてしまう恐れがあるのではないかと知識がないので、教えてください！
 - ずっとコイを放すではなく、ザリガニだけになった状態で放す予定。
 - 捕獲ザリガニの処分方法について教えてください。
 - 次のザリガニ駆除の材料になります。
 - 下敷きも良いですが、マタニティマークのようなキーホルダー＋小冊子(手帳に入るサイズ)でふだんから身につけられるモノは堂でしょう？
 - 検討材料にします！
- **自然観察会**
 - 自然観察会は玄人が参加するイメージ。どんな人が参加しているの？
 - ふだんは、親子連れや孫と子どもと一緒に参加している。環境に関心を持ってもらうための入口になればと考えている。



意見交換（活動報告会より②）

• ポケットエコスペース

- これまでポケットエコスペースの観察を行ってきた、どんな植物変遷をたどってきたか？
最初は植えたのか？何もしていないのか？
親水公園との湿地のつながりは作られたのか？作られなかったのか？
 - 1988年からスタートし、湿地環境の復元を行ってきた。湾岸部や植物園から移植してきた。現在48ヶ所(3ha)あり、これからは連携して保全していきたい。

• 江東植物保存区

- 江東植物保存区はどこにあるのですか？
何カ所ありますか？
 - 3年前からスタート。ストックする場所としては横十間川に1ヶ所だけある。

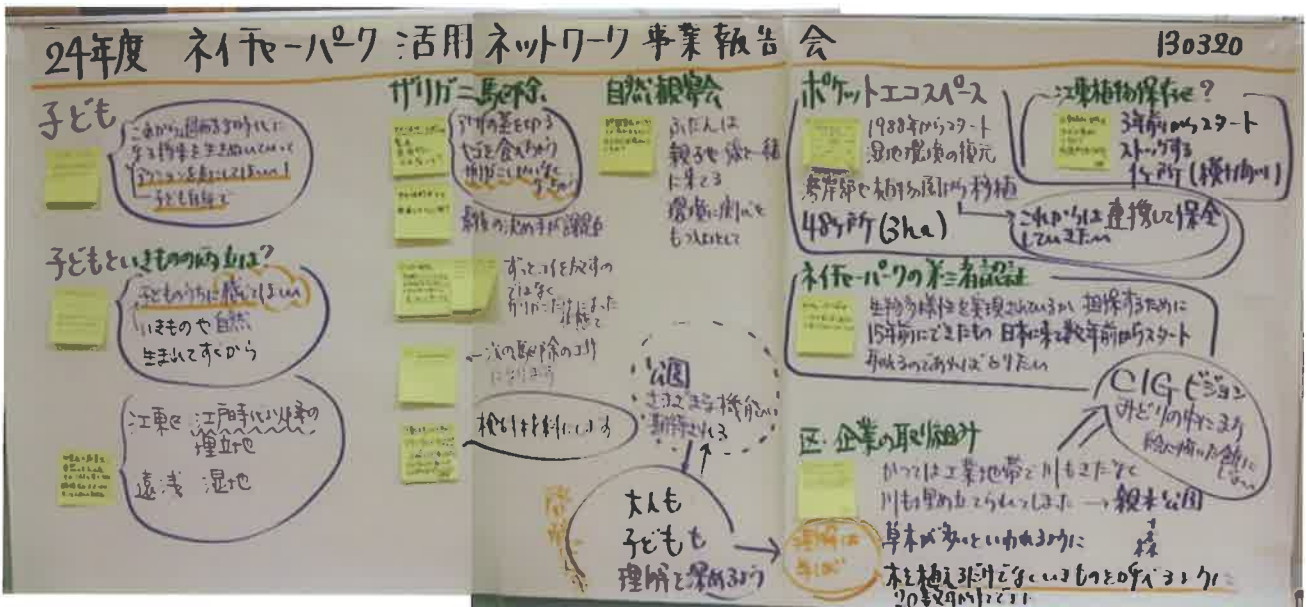


• ネイチャーパークの第三者認証

- ネイチャーパークではJ-HEP等の第三者認証は検討されているのでしょうか？
 - J-HEPは生物多様性が実現されているかを担保するための第三者認証システム。15年間にできたもので、日本では、数年前からスタートしている。とれるのであれば、ぜひとりたい。

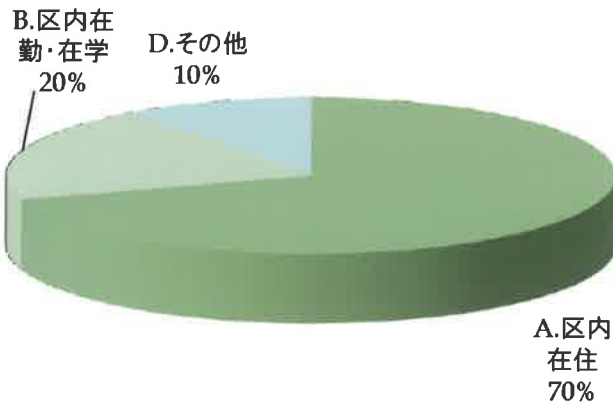
• 江東区・企業の取り組みは？

- 区民団体の活動は理解で清かったが、区政。企業からの報告があるととても良いと思う。
 - かつては工業自体で、川も汚く、多くの川は埋め立てられてしまった。そこで親水公園や森をつくってきた。木を植えるだけでなく、いきものを呼べるようにと20数年かけてやってきたが、理解は半ば。
 - 最近ではCIGビジョンとしてみどりの中にまちと絵に描いた餅にしないようにしたい。公園にはさまざまな機能が求められている。いきものを呼べるようにするためには、大人も子どもも理解を深められるようにする啓発が大事だろう。

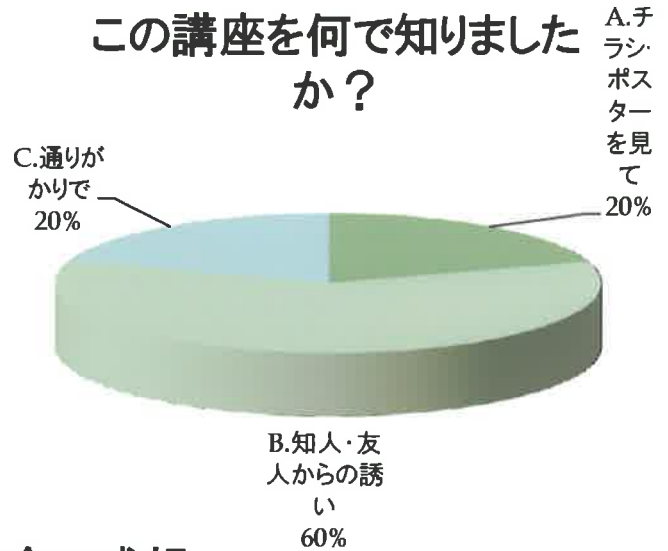


アンケート結果

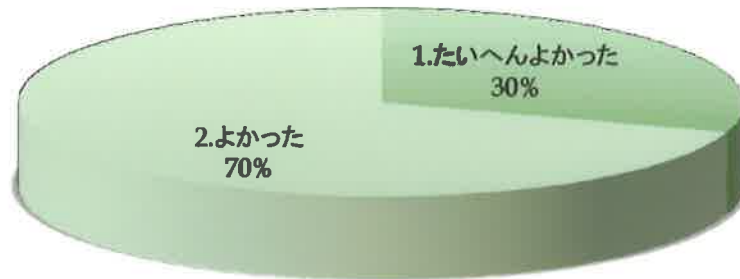
どこから来ましたか？



この講座を何で知りましたか？



活動報告会の感想



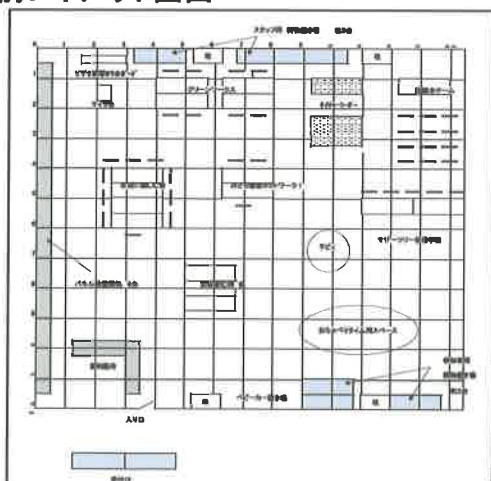
● 講座に対する感想(自由記入)

- 外でネイチャーゲームをやれたかったです。イベントを知ってたら、もっと早く来たのに、と思いました。もっと宣伝してもいいかなと思います。
- 子どもさんがたくさん参加しており、若いときから自然の楽しさをして環境に在りて関わることとはとてもよいと思います。
- これまでの活動のまとめとしてはよくわかりました。これから先どう動いていくべきかということについては、まだ課題が多いという実感を持ちました。
- それぞれの団体がお話になるこれまでの活動をうかがい、試行錯誤に満ちていることを感じた。これは継続することでますます充実すると思う。今後の活動を期待する。
- 継続的に運営していくには？をチームで考えていきたい。
- 市民プランの作成は面白い取り組みだと思います。マルチステークホルダーでの合意形成は難しいこともあると思いますが、事務局の積極的な取り組みを期待しています。
- ザリガニ駆除の件など疑問に思っていたことが少し理解できました。いろいろな活動をされていることを知って驚きました。この活動をもっと多くの人に知ってもらえるようにしていきたいです。
- もっともっとPRしてください。

スタッフ当日ふりかえり

	良かった点	惜しかった点・今後に向けて
午前の部	<p>呼び込みをやってもらって良かった。 たくさん参加した。 ひまそうなブースがなくて良かった。 場所が良かった。ロケーションもマッチしていた。 各ブース面白かった。 無料が良い。 自己がなくて良かった。 大人と子どものバランスがよい。 これぐらいの人数がちょうど良い。 段取り良くできた。 レイアウト図面が良かった。 役割分担ができていた。 ティピがインパクトがあって良かった。 チーム江東としてこうしたイベントが出来たのが良かった。 次もやろうという気持ちになった。 時間配分がきちんと出来て良かった。 リピーターになってくれそうな人がいた。</p>	<p>活動へ来てくれた人を繋げられた？ お母さん達が集まってしゃべる時間やコーナーがあるとよかった。 お父さんコーナーがあると良い。 BGMや音楽があると良い。 ブースの配置はこれで良かった。 外プログラムがあると良い。 各ブースの案内がもう少し楽しげだとよい。 事前告知をもっと徹底しよう →ポスターがほしかった。WEBづくり →チーム江東のパンフ 役所に人に見せたかった。 生物多様性チーム江東を伝える場がわずか。 2時間で終わってしまうのが惜しい。 労力をかけたのに。 やったことへの自分たちの活動へのフィードバックは？ どういう活動なのか趣旨がわかるようにする。 今日プログラムはパッケージ化して売れるのでは?!</p>
午後の部	<p>島状レイアウトが良かった パワポ初体験がうまくいった。 時間配分ちょうど良かった。 進行が良かった。 助成金の説明で全体共有できた。 ちゃんと報告会になっていた。 高垣さんがいつも来てくれると良い。 以前ワークショップに参加してくれた方のコメントが良かった。 13名の参加は上出来。</p>	<p>寝ていた人がいた。 区外在住者にとっては、自分とのつながりを感じられなかった。(区内の人と同じ) 教育関係の人に来てほしかった。 今後の取り組み→具体的な話を。 時間管理が不十分だった。 →予定していなかった人の登壇 集客もつとがんばらねば。 AMとPMまったく別のものであった。 →つながりを持たすべき?! 葛飾区からPRしてくださいとの声があった。 お弁当が少し足りなかった。 PMからAMのプログラム目当ての親子が来た。</p>

▼午前レイアウト図面



▼会場入口での呼び込み




参考資料

▼当日資料


▼ネイチャーパークとは

木立を相う子どもたちが、豊かな自然の中で、元気に遊び、学ぶ場所。そして江東区にもっと住んでいた生き物をふたたびまちに呼び戻し、かれらが安心して暮らせる場所。ネイチャーパークはそんな環境をみんなで作え、みんなで遊り、みんなで育てていく公園です。




▼生物多様性チーム江東とは

私たちは、2010年に名古屋で開かれた生物多様性締約国会議(COP10)を機に、江東区で自然や環境に関する活動をしているグループメンバーが中心になって、江東区の生物多様性を実現するために集まり活動をしている任意団体です。



ネイチャーパーク活用ネットワーク事務局

**自然とあそび、自然を学ぶ
『ネイチャーパークをつくらう!』**



**生物多様性チーム江東
もっと知りたい方はこちらまで**

info@teamkoto.net
月1-2回定例会を実施しています。

写真撮影のお願い

生物多様性チーム江東では、今回の取り組みの報告ならびに、ネイチャーパークの広報活動の一環として、写真・ビデオ撮影をしています。なにとぞご理解のほどお願いいたします。もし、ご都合の悪い場合は、広朝担当(名札を付けています)までお知らせください。

★午前の部★

10:00~11:00 **■ネイチャーパークであそぼう!
ネイチャーパークを疑似体験**

自然とあそびの体験会「自然とあそび」(1) 自然学校
自然とあそび「自然とあそび」(2) 自然学校
自然とあそび「自然とあそび」(3) 自然学校
自然とあそび「自然とあそび」(4) 自然学校
自然とあそび「自然とあそび」(5) 自然学校

11:00~12:00 **■ネイチャーパーク・おしゃべりタイム!**

★午後の部★

14:00~16:30 **■活動報告会**

生物多様性チーム江東2012活動報告会
今後の取り組みについて

ネイチャーパークづくりのための6つのプロジェクトを紹介します!

こどものためのネイチャーパークワークショップ

■ねらい
事前紹介や現場体験などを通して、子どもの目線からの自然体験について学び、子どもやその親への効果について意見を引き出し、ネイチャーパークに必要な要素を集めたい。

■24年度の成果
3回のワークショップを行いました。子ども向けのネイチャーパーク体験を踏まえて、デザインゲームという手法で、色紙やイラストの紙を使った公園設計を体験しました。

■これからの予定
ネイチャーパークファンクラブをつくり、区民の皆さんと気軽に「おしゃべり」したり、活動しながら、江東区らしいネイチャーパークのすがたを楽しく考えていきます。

外来種駆除大作戦

■ねらい
外来種としてアメリカザリガニを題材に、その生息生態をモニタリングし、駆除のあり方などを提案してまわす。子どもたちにアメリカザリガニを通して、地域に古くかいているいきもの、人工的に入ってきた外来種のことを考えてほしい。

■24年度の成果
6ヶ月の駆除実態調査を山台堀川エコスペースで実施し、結果をまとめました。

■これからの予定
実態調査をさらに続けて、外来種駆除の方法を考えていきます。

自然観察会

■ねらい
生物多様性を伝えるための自然観察会としての試行を行い、ネイチャーパークの多やプログラムを試みたい。

■24年度の成果
生物多様性を感じてもらうゲームやマイネイチャーマップづくりに挑戦しました。

■これからの予定
マイネイチャーマップづくりを進めて、トコロジスト(地元専門家)をめざしていきます。

いきものためのネイチャーパークワークショップ

■ねらい
いきもの視点から、江東区の生物多様性を現場で再確認しながら、ネイチャーパークの要素を集めたい。

■今年の成果
2回のワークショップを行いました。いきもの専門家や関係者のある人と現場観察をし、江東区にあるべき多様ないきもの具体的な管理種やアイデアを集めました。

■これからの予定
ワークショップでまとめたアイデアを実際のネイチャーパークの多様な活用方法を考えていきます。

ザリガニ駆除本づくり

■ねらい
外来種であるアメリカザリガニによる池・沼の生態系の調査に気づき、環境教育の観点で、子どもと向き合い、考え・行動できるような子供たちを増やしたいです。

■24年度の成果
小学生向け下書きの冊子を編集中です。決定後作ります。

■これからの予定
区内の小中学校に配るべく動きかけていきます。また学校の授業で使える副読本づくりに取り組んでいます。

ジュニアスクール

■ねらい
ネイチャーパークの担い手である子ども達を中心とした生物多様性チームを立ち上げるためのキックオフ的な取り組み。

■これからの予定
3月30日に東京大学博物館で説明会を実施します。夏以降本事業も予定しています。